

The Japan Institute of Architects

2 0 2 4

建築の未来

JIA 建築家大会2024 別府

報告書



公益社団法人 日本建築家協会九州支部

目次

大会概要	3
JIA会長あいさつ／支部長あいさつ	4
大会委員長あいさつ／大会実行委員長あいさつ	5
大会プログラム・スケジュール	6
シンポジウム1 JIA全国10支部合同企画「注目の若手建築家による建築討論」	8
シンポジウム2 建築の未来Ⅰ「偉大な先輩建築家に学ぶ区 磯崎新とは」	9
シンポジウム3 建築の未来Ⅱ「だれも知らない建築のはなし」	10
シンポジウム4 「熊本から考える災害と未来」	11
シンポジウム5 「大分から考える木造と未来」	12
シンポジウム6 建築の未来Ⅲ メインシンポジウム 「講演会〈Open-ended Architecture〉×クロストーク」	13
大会式典／名誉会員の集い	14
ウェルカムパーティー／レセプションパーティー	15
別府温泉街探索 まちあるき・まちづくりワークショップ	16
International Presidents' Forum	17
建築家のあかりコンペ2024二次審査・表彰式	17
JIA建築家大会2024別府 JIAマンス	18
法人協会会員サミット	20
協力会展示	21
各種展示	22
まちと建築展	23
JIA建築家大会2024別府の舞台裏	24
別府温泉ナイト JIAバンドパーティー 2024@別府／別府夜の大交流会！	25
エクスカーションS 特急「A列車で行こう」To 湯布院／エクスカーション1 磯崎新建築のいま 大分編	26
エクスカーション2 磯崎新建築のいま 北九州編／エクスカーション3 熊本震災遺構巡り+文化財修復塾ツアー	27
グラフィックデザイン／会場デザイン	28
Webデザイン・動画など	29
新聞記事	30
協賛パートナー一覧	32
僕は知らない建築家大会の話／編集後記	34
大会統括メンバー・実行委員	34

大会概要

大会名称 JIA 建築家大会2024 別府

大会テーマ 建築の未来

大会日程 2024年11月28日(木)～30日(土)

開催会場 別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」
アートプラザ

イベント 「注目の若手建築家による建築討論」「偉大な先輩建築家に学ぶIX 磯崎新とは」「だれも知らない建築のはなし」
「熊本から考える災害と未来」「大分から考える木造と未来」「メインシンポジウム 講演会〈Open-ended Architecture〉
×「建築の未来」クロストーク」、大会式典、ウェルカムパーティー、レセプションパーティー、国際委員会シンポジウム、まちづくりワークショップ、エクスカッションS、1～3、建築家のあかりコンペ、別府温泉ナイト I・II、名誉会員の集い、支部長OB会、法人協力会サミット、各種展示等

参加人数 680名(登録者)

主催 公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)

後援 国土交通省、大分県、別府市、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本建設業連合会、(公社)日本建築積算協会九州支部、(一社)日本建築学会九州支部、(一社)日本建築構造技術者協会九州支部、(一社)日本コンストラクション・マネジメント協会九州支部、(公社)大分県建築士会、(一社)大分県建築士事務所協会、(一社)大分県設備設計事務所協会、(一社)日本建築学会九州支部大分支所、九州旅客鉄道(株)、大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、(株)エフエム大分、(株)大分建設新聞社

協力 アートプラザ

協賛企業 192社

大会HP報告ページ <https://www.beppu2024.jia-9.org/>



大会HP
報告ページ

●会場

別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」

設計：磯崎新 竣工：1995年



ビーコンプラザと別府市内



ビーコンプラザ正面

アートプラザ

設計：磯崎新 竣工：1966年(改装：1998年)



アートプラザ外観



ビーコンプラザから眺める別府公園・市内・別府湾



ウェルカムパーティーの会場、国際会議室



アートプラザ内部 60' ホール

JIA会長あいさつ

次の世代に繋ぐ建築の未来を議論し、 学んだ3日間



公益社団法人 日本建築家協会会長
佐藤尚巳

昨年11月末にJIA建築家大会2024別府が開催された。例年を上回る680余人の参加登録があった。日本の建築界をリードした磯崎新氏の生誕地であり、氏の作品が数多く現存する大分と別府の温泉地での開催が多くの参加者の関心を引いた。

テーマは「建築の未来」。建築界は近年さまざまな条件が複合的に絡み合い、解くべき課題が多岐にわたる厳しい環境にさらされている。CO₂削減と同時に地震や洪水等の自然災害の多発と狂暴化に備えて建築は安全性と安心感を担保しなければならない。そんな厳しい状況においても人間にとって優しく快適で感動を生む活動空間、交流空間、業務空間、賑わい空間を産み出し、提供するのが我々建築家の使命であり、生きがいでもある。そんな次の世代に繋ぐ建築の未来をいかに創造するか、改善するか、展開できるか、議論し、学んだ3日間であった。

毎年継続して行ってきたJIAマンスという大会のプレイベントも、一過性の議論ではなく継続性を持ち深みのある議論

に繋がるので、大変好評をいただいている。特に若手建築家12人による討論会は、全国各地で悩み苦しんでいる若手の情報交換、交流の場として大変有効に機能している。

JIA会員の平均年齢が約68歳と高齢化が進んでいる中で、未来を切り開く「頼りになる若手建築家」の活躍の場が広がるように手助けできる「頼りになるJIA」とならなければならない。



ウェルカムパーティーにて

支部長あいさつ

14年ぶりの大会を盛況に終えて



九州支部支部長
佐々木寿久

皆様ご多忙中にもかかわらず、建築家大会2024別府に多数ご参加いただき誠にありがとうございました。また御協賛いただきました個人・団体・法人の皆様、大分県・別府市の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに幕を閉じることができましたこと、九州支部一同心より御礼申し上げます。

また、大会開催にあたりご教授いただきました沖縄支部・東海支部の皆様には厚く感謝申し上げます。

九州支部では14年ぶりの開催でありました。本大会では、「建築の未来」をテーマに、基調講演・シンポジウム・エクスカッションなど、多岐にわたるプログラムを実施いたしました。皆様には、熱心にご聴講、ご参加いただき、活発な議論が交わされておりましたこと大変嬉しく存じます。今後の建築界の発展に少しでもお役に立てれば幸いです。

ウェルカムパーティー・レセプションパーティーでは、参加者の皆様同士の交流も深めていただけたかと存じます。さまざまな建築の分野でご活躍されている皆様一堂に会し、

情報交換や親睦を深める場となりましたことは、本大会の大きな成果の1つと考えております。

別府市という特別な温泉の力も借りました今回の大会が、皆様にとって有意義な時間となりましたなら幸いです。また一度別府市をはじめとする九州を訪れていただけたらと思います。今後も建築界の発展に貢献できるようJIA九州支部一同頑張っまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



大会式典にて

未来に向けた新たな糧となる大会

大会委員長
松山将勝



JIA 建築家大会2024 別府には、国内外から多くの方々にご参集いただきまして、九州支部一同心から御礼申し上げます。

歴史と温泉文化が息づく別府の地で「建築の未来」というテーマのもと、大会プログラムや交流会、エクスカージョンを通して多くの皆さまと共に建築の未来を語り合い議論を深め、新たな視座を共有する貴重な場となりましたことを改めて深く感謝申し上げます。

「建築の未来」を語ることは、私たちの社会が直面する課題や可能性を見つめることにほかなりません。自然災害や気候変動、人口減少や都市と地方の関係性、さらにはデジタル技術の進展など、私たちが取り組むべき課題は複雑かつ多岐にわたります。そうした状況下で建築の役割も、単なる「空間を創る」行為から、人間社会や地球環境と深く関わる「価値を生む」役割へと変容しています。

私たち建築家は、この変化をいかに捉え、どのように応答し、未来を切り拓いていくべきか。本大会を通して、JIA会員の多様な価値観や経験を共有しながら皆さまと交わした議論は、

未来に向けた新たな糧となるかけがえのない時間であり、今後の建築界にとっても重要な示唆をもたらす大会になったのではないかと存じます。

別府の地で生まれた新たなネットワークや知見が、これからの建築の発展や地域づくりに寄与することを心から願い、次回の千葉大会で再びお目にかかれる日を楽しみにしております。



シンポジウム1にて

持続可能な建築家大会に

大会実行委員長
川津悠嗣



2024.11.28～30に開催しました「JIA 建築家大会2024 別府」には、遠路よりJIA会員の皆様においでいただき、誠にありがとうございました。JIA会員、一般・学生を含み約680名の皆様にご参加いただきました。九州支部一同、心よりお礼を申し上げます。

今回の大会は当支部が担当しますのは14年ぶりでしたので、2023年6月より準備を開始し、3週に1回の実行委員会は27回を数えるまでになりました。「建築の未来」というテーマのもとに、現在我々が共通に抱えているさまざまな問題を議論し考える機会を提供したい、という構想を広げ構築していく作業は楽しくも胃の痛くなる日々でした。この長い準備期間を九州支部、とりわけ実行委員会の仲間たちの支えによって乗り切ることができました。

今回の大会の裏テーマは、持続可能な建築家大会を目指す、というものでした。費用の掛かる大会の運営は支部にとっては大きな負担であり、コンパクトで身の丈に合った、寄付金集めに奔走しなくて済む大会をめざしました。本部の催しと

支部による企画以外は大会期間中のプログラムとしない、できるだけ別府の街を楽しんでいただきたい、デジタル化を図りパンフレット等の印刷物やお土産的なものを減らす、などいくつかの点では初心を貫くことができました。しかしコンパクトに収めることは、たくさんの方にご参加いただきたいという思いと相反し、紆余曲折の末に今までと同様にそこそこお金のかかる大会となってしまったことは大いに反省する点です。

オンラインでのネットワークが広がった今日こそ、顔を突き合わせて議論することの意義は増してくると考えられます。これからも形を変えながらも全国大会が続いていきますことを期待しております。

また次の大会でお会いしましょう。



レセプションパーティーにて

大会プログラム・スケジュール

SCHEDULE : 大会スケジュール

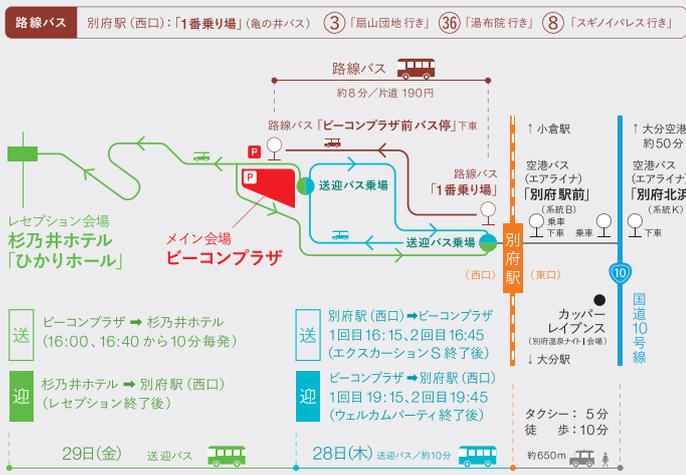
11
28(木)

<p>9:00 特急 「A列車で行こう」 To 湯布院 10:30 別府駅中央改札 集合</p> <p>11:00 別府駅出発</p> <p>12:20頃 JR 由布院駅到着</p> <p>14:00 湯布院自由散策 (2時間)</p> <p>15:00頃 JR 由布院駅出発</p> <p>16:15頃 別府駅到着 移動/別府の街並みを散策し、 ビーコンプラザに移動 ウェルカムパーティーに合流 送迎バスを準備しています。</p>	<p>9:00 別府市内とその周辺には磯崎新氏設計の建築や著名な建築家の設計による現代建築が多くあります。 この機会に大会と合わせて別府のまちなみ・建築探訪もお楽しみください。</p> <p>10:20~ 集合場所: 別府駅西口集合 まちづくりワークショップ I 「別府温泉街探索」 要予約 (一般参加)</p> <p>11:00 別府駅西口集合 まちづくりワークショップ II と連携企画</p> <p>11:30 ~ 13:00 会場: 1F フィルハーモニアホール ホワイエ まちづくりワークショップ II (一般参加) ※1</p> <p>12:00 ~ 16:30 ■総合受付: 別府国際コンベンションセンター 「ビーコンプラザ」エントランスホール プログラムは13:00開始</p>	<p>13:00 ~ 16:30 ●会場: 1F 中会議室 S1 シンポジウム1 JIA 全国 10 支部 「注目の若手建築家による建築討論」 + 九州建築新人賞 受賞者 (一般参加)</p> <p>13:30 ~ 15:20 会場: アートブラザ・研修室 ※ビーコンプラザと会場が異なります。 シンポジウム2 建築の未来 I 「偉大な先輩建築家に学ぶⅨ」 「磯崎新とは」 JIA-KIT 建築アーカイブス 連携企画 (一般参加)</p> <p>13:30 ~ 15:30 会場: BF 小会議室 2・3 S3 シンポジウム3 建築の未来 II 「だれも知らない 建築のはなし」 ビデオ上映 & 監督トーク (一般参加)</p>	<p>14:00 ~ 16:30 会場: 3F 小会議室 32 地域会・協力会企画展示 (一般参加)</p> <p>14:00 ~ 16:30 会場: 3F 小会議室 32 本部企画 あかりコンペ 2024 二次審査表彰式 (一般参加)</p>
<p>16:00</p> <p>17:00</p> <p>18:00</p> <p>19:00</p> <p>20:00</p>	<p>17:00 ~ 19:00 (2時間) 国際会議室 会場: ビーコンプラザ 3F 小会議室 31 W 送迎バスを準備しています。</p> <p>17:00 ~ 19:00 (2時間) 国際会議室 会場: ビーコンプラザ 3F 小会議室 31 W</p> <p>開場 19:30 演奏 20:00 ~ 23:00 会場: カッパーレイブンス (Copper Ravens)</p>	<p>17:00 ~ 19:00 (2時間) 国際会議室 会場: ビーコンプラザ 3F 小会議室 31 W</p>	<p>17:00 ~ 19:00 (2時間) 国際会議室 会場: ビーコンプラザ 3F 小会議室 31 W</p>

各種会議 支部長OB会 / 16:00 ~ 17:00 ●会場: B1F 小会議室 2・3

受付のご注意 ※1 まちづくりワークショップI、IIにご参加の皆様: 大会受付は、ワークショップ終了後に済ませてください ※2 シンポジウム2 (会場:アートブラザ)にご参加の皆様: 大会受付は、ビーコンプラザに移動到着後済ませてください

ACCESS



JIA WEB SITE
MAP PAGE



11 / 29 (金)

11 / 30 (土)

■ 総合受付：別府国際コンベンションセンター
「ビーコンプラザ」エントランスホール | 9:00～16:30 / プログラムは 9:30 開始

別府駅(西口)からは、路線バス移動がおすすめです。

シンポジウム 4 (S4) 10:00～12:00 ● 会場：1F 中会議室
「熊本から考える災害と未来」 (一般参加)
登壇予定者：末廣 香織氏・柴田 真秀氏
モデレーター：原田 展幸

シンポジウム 5 (S5) 9:30～12:00 ● 会場：3F 国際会議室
「大分から考える木造と未来」 (一般参加)
登壇予定者：岩前 篤氏・五十田 博氏
青木 謙治氏
司会等：三浦 逸朗(会) [JA大分地域会]、他

別府駅(西口)からは、路線バス移動がおすすめです。

10:00～12:00 会場：3F 小会議室 31 (K)
本部企画
国際委員会シンポジウム (一般参加)

10:00～12:00 まち歩き 「自由探索」 別府温泉街等

「大会式典」 13:00～13:50 ● 会場：コンベンションホール (D)

シンポジウム 6 (S6) 14:00～17:00 「メインシンポジウム」 (一般参加)
会場：コンベンションホール
建築の未来Ⅲ 「建築家講演会 × クロストーク」
「建築の未来」をテーマにした基調講演とパネリストによるクロストーク テーマ：Open-ended Architecture

メインシンポジウムは、重松 象平氏 (建築家/OMAパートナーおよびニューヨーク事務所代表/九州大学大学院人間環境学研究院教授)による「Open-ended Architecture」と題した基調講演と、末廣 香織氏をモデレーターに迎えて重松 象平氏、末光 弘和氏、石山 友美氏のパネリストが登壇し、「建築の未来」についてのクロストークを展開します。

クロストークパネリスト
重松 象平
1973年福岡県生まれ。九州大学工学部建築学科卒業後、1998年よりOMAに所属し、2008年パートナー就任。ハーバード大学GSD、コロンビア大学GSAPPなどで客員教授を歴任。
photo by John Casady

モデレーター 末廣 香織
パネリスト 末光 弘和
パネリスト 石山 友美
photo by Massimo SIRONI/AMA

移動：ビーコンプラザから専用バスで、レセプションパーティーの会場「杉乃井ホテル・スギノイホールひかり」へ移動 送迎バスを準備しています。

「名誉会員の集い」 17:30～18:00 ● 会場：杉乃井ホテル

「レセプションパーティー」 18:00～20:00 (2時間)
会場：杉乃井ホテル・ひかりホール

送迎バスを準備しています。

「別府温泉ナイトⅡ」 JIA 仲間が集まろう ～九州支部ナイト～ 21:00～25:00
会場：カッパーレイブンス (Copper Ravens)

法人協力会サミット / 10:00～11:30 ● 会場：1F ギャラリースペース

エクスカージョン

エクスカージョン.1
磯崎新建築のいま～大分編～
8:45 大分駅(北口)側「大分市要町」貸切バス駐車場 集合
9:00～17:30 大分駅出発
⇒ 大分県立図書館
⇒ アートプラザ
⇒ 岩田学園 見学

エクスカージョン.2
磯崎新建築のいま～北九州編～
8:15 大分駅(北口)側「大分市要町」貸切バス駐車場 集合
8:30～19:30 大分駅出発
⇒ 北九州市立美術館
⇒ 北九州市立中央図書館
⇒ 西日本総合展示場
北九州国際会議場 見学

エクスカージョン.3
熊本震災遺構巡り + 文化財修復塾ツアー
7:45 大分駅(北口)側「大分市要町」貸切バス駐車場 集合
8:00～19:30 から 20:00 大分駅出発
⇒ 阿蘇神社
⇒ 京都大学火山研究センター
⇒ 熊本地震震災ミュージアム
⇒ 熊本城 見学

協力会サミット地域会・協力会企画展示 (一般参加)

受付のご注意



特急「A列車で行こう」にご参加の皆様：
大会受付は、ビーコンプラザに移動到着後済ませてください

最新の詳細はホームページでご確認ください →

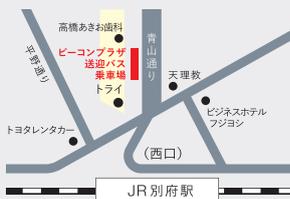


送迎バス乗口 28日(木)

別府駅西口 ⇄ ビーコンプラザ



JR 別府駅(西口)から徒歩約1分
青山通り沿い 左手
「高橋あきお歯科」付近にて乗車



エクスカージョン1・2・3 貸切バス 駐車場 30日(土)

エクスカージョン参加者 集合場所



JR 大分駅(北口)から徒歩約3分
「大分市要町貸切バス駐車場」内
「長距離バス乗降場」集合



FLOOR MAP

シンポジウム1 JIA全国10支部合同企画「注目の若手建築家による建築討論」

日時：11月28日(木) 13:30～16:30
会場：ビーコンプラザ 1F中会議室

〈参加者〉

谷紀明氏(タニアトリエー級建築士事務所：四国支部推薦)、矢橋徹氏(矢橋徹建築設計事務所：九州支部推薦)
工藤浩平氏(工藤浩平建築設計事務所：関東甲信越支部推薦)、岡佑亮氏(Chidori studio：北陸支部推薦)
中西正佳氏(中西正佳建築設計事務所：近畿支部推薦)、蟻塚学氏(蟻塚学建築設計事務所：東北支部推薦)
和田優輝氏(和田デザイン事務所：中国支部推薦)、御手洗龍氏(御手洗龍建築設計事務所：関東甲信越支部推薦)
吉田夏雄氏(吉田夏雄建築設計事務所：東海支部推薦)、光浦高史氏(DABURA.m：九州支部推薦)
米花智紀氏(米花建築製作所：北海道支部推薦)、仲本昌司氏(ADeR：沖縄支部推薦)
モデレーター：畑友洋氏(畑友洋建築設計事務所) 塩塚隆生氏(塩塚隆生アトリエ)
木村吉成氏(木村松本建築設計事務所)

司会進行：浅井裕雄氏(裕建築計画／東海支部長)

2023年度よりJIA全国10支部合同企画としてスタートした「注目の若手建築家による建築討論」は、JIA建築家大会2024別府で2回目の開催を迎えました。3名のモデレーターを迎え、10月のプレ企画「JIAマンス」において全3回実施し、11月28日の本大会では対面形式のシンポジウムが開催されました。

今回は、昨年度JIA九州支部にて創設された「九州建築新人賞」の受賞者2名も登壇者に加わり、合計12名の若手建築家が参加。それぞれの地域で活動する彼らが、建築と向き合いながら自身の建築家像を確立しようと奮闘する姿は、時に孤独との闘いでもあるかもしれません。しかし、同じ志を持つ若手建築家たちが、各地域における建築創造の苦悩やプロセスを語り合うことで、新たな未来のビジョンが見えてくるはずだと。

このシンポジウムの目的は、全国の同じ志を持つ建築家のつながりができ、同じ時代を生きる仲間ができる喜び。そうした場をつくり全国の建築家同士がつながる場をつくることです。天井の高い広々とした会場に12名の登壇者が囲い集い、それぞれの建築観や思想、実作を通して意見を交わす中で、活発な議論が展開されました。

若手建築家による未来を見据えた創作活動のプレゼンテーションでは、これからの時代を切り開くアイデアや手法が展開され、これからの建築への大きな提言であったと思います。また、建築と地域社会との関わりについても、各地域の多様な視点から意見が交わされ、地域に根差した建築のあり方について考察が深まりました。

会場には50名を超える聴講者が集まり、討論の内容に耳を傾けました。質疑応答の時間には、若手建築家の視点の質問や今後の展望について意見が寄せられ、司会、モデレーターを中心に登壇者・聴講者が一体となって意見が交換されました。「建築の未来」や「JIAの未来像」について考える貴重な機会となりました。(有吉兼次)



会場の様子

●若手建築家12名



谷紀明氏



矢橋徹氏



工藤浩平氏



岡佑亮氏



中西正佳氏



蟻塚学氏



和田優輝氏



御手洗龍氏



吉田夏雄氏



光浦高史氏



米花智紀氏



仲本昌司氏

●モデレーター



畑友洋氏



塩塚隆生氏



木村吉成氏

●司会



浅井裕雄氏



全員で記念撮影

シンポジウム2 建築の未来I 「偉大な先輩建築家に学ぶIX 磯崎新とは」

日時：11月28日(木) 13:00～15:20

会場：アートプラザ(旧大分県立大分図書館) 研修室

〈登壇者〉

菅 章氏(前大分市美術館館長) 西岡 弘氏(元磯崎新アトリエ所員)

総括：仙田 満氏(NPO 建築文化継承機構理事)

司会：山崎幹泰氏(KIT 建築アーカイヴス研究所所長)

進行：上浪 寛氏(NPO 建築文化継承機構代表)

シンポジウム2は、JIAとNPO建築文化継承機構との共催で、大分市内の「アートプラザ」で行われました。アートプラザは、1966年に竣工した磯崎氏の作品であり、現在は、登録有形文化財に指定されています。

シンポジウムは、登壇者に菅章氏(前大分市美術館館長)、西岡弘氏(元磯崎新アトリエ所員)両氏を迎え行われました。当初、メイン会場のピーコンプラザからも遠いため、来場者が心配されたが、会場の定員である70名が参加し盛況でした。

最初に西岡氏が当時の事務所で磯崎氏の立ち振る舞いや、仕事に対しての向き合い方、現場での話をわかりやすく話されたので、参加者の方々も興味深く聞かれていました。

菅氏は、磯崎新の背景(瓜生島、終戦時の廃墟など)、資質(アーティスト、エンジニア、思想家、批評家)、時代(安保と前衛。高度成長と失速、バブルとポストモダン)、成果(建築家の概念を変えた、文化としての建築、芸術と建築の関係性、世代間の交流)を我々建築家と違った視点で捉えられていて、新鮮でした。

磯崎氏について、彼は、建築家と同時に多様な顔を持った多面体の人であり、エニグマ(謎の人)であり、建築外的思想を持っていて、文化表象の手法を用い、建築の解体と再編を試み

た建築家であるとも話されました。

これらは、著書や作品でしか知らなかった磯崎氏を再認識するとともに、現在の我々建築家に、あらためて偉大な先輩建築家であると考えさせられたシンポジウムでした。

最後に、沖縄からの来場者の方から磯崎氏の沖縄移住の話なども聞くこともでき、有意義な時間を共有できました。

(田中康裕)



登壇者の菅氏と西岡氏



会場の様子

JIA-KIT建築アーカイヴス会議

偉大な先輩建築家に学ぶvol.9

「JIA建築大会2024別府」のテーマは「建築の未来」。

開催地の大分県は世界的建築家磯崎新氏の生誕地でもあり、氏の作品である大分市アートプラザにてどのように地域、環境、文化を考察し、建築と向き合ってきたかということ、氏の後継者、関係者、研究者に語っていただき、その教えを学びます。

シンポジウム 磯崎新

とは

2024年11月28日(木)
13:00～15:20 大分市アートプラザ

登壇者 菅 章氏(大分市立美術館館長)
「磯崎新の建築外的思考について」

登壇者 西岡 弘氏(西岡弘建築工房、元西日本工業大学教授)
「磯崎新・根掘り葉掘り」

司会 山崎幹泰 進行 上浪 寛 総括 仙田 満

主催：特定非営利活動法人 建築文化継承機構 / JIA-KIT 建築アーカイヴス
問合せ先：NPO法人建築文化継承機構事務局 担当 櫻井ちとむ(建築関係社内) 03-3356-2575
お申し込みは、JIA九州支部の大会WEBサイトより <https://www.beppu2024.jia-9.org/>



アートプラザの前で

シンポジウム3 建築の未来II 「だれも知らない建築のはなし」

日時：11月28日(木) 13:30～15:30

会場：ビーコンプラザB1F小会議室2・3

〈登壇者〉

石山友美氏(映画監督/秋田公立美術大学准教授)

今回のシンポジウム3では、映画監督の石山友美氏をお招きし、話題のドキュメンタリー映画「だれも知らない建築のはなし」の上映会と、石山氏ご自身による解説を行いました。

映画は、磯崎新氏がコミッショナーを務め、世界の建築家が集結した会議の様子を克明に描き出し、1980年代から2000年代にかけての日本の建築界の激動を映し出していました。特に、安藤忠雄氏や伊東豊雄氏など、現代建築界を代表する建築家たちの若き日の姿は、参加者の皆さまに大きな感動を与えたことと思います。

映画上映後には、石山氏より、映画制作の背景や、各建築家の個性、そして日本の経済状況が建築に与えた影響など、貴重な解説がありました。発注者と建築家、そして日本の経済が複雑に絡み合いながら、建築がどのように創られていくのか、その過程を深く掘り下げた内容に、参加者の皆さまは熱心に耳を傾けていました。

会場は、立ち見が出るほどの盛況ぶりで、多くの方々にご来場いただきました。上映後には特別に、旧都城市民会館の解体前の貴重な映像を最後に見せていただき、その建築の力強さと映像の美しさには、来場者の皆さまの心に深く響いた様子でした。

今回のシンポジウムを通じて、参加者が、建築が単なる建物ではなく、時代や社会、そして人々の想いが凝縮されたものであることを改めて認識されたことと思います。また、現代建築の礎を築いた建築家たちの情熱や苦労に触れ、建築に対する理解を深めていただけたのではないのでしょうか。

今後も、このような機会を通じて、建築の魅力を多くの方に伝えていきたいと考えております。
(村上明生)



会場の様子



磯崎氏のシーン



質疑に答える石山氏



シンポジウム3 [建築の未来II]

石山友美氏 監督作品
「だれも知らない建築のはなし」上映

11/28(木) | 13:30～15:30
●会場：B1F 小会議室2・3

建築はそれが置かす社会と切り離して考えることは不可能なものです。石山友美氏(映画監督/秋田公立美術大学准教授)の監督作品「だれも知らない建築のはなし」(2023年、ミネアポリス・映画祭出品)では、高度に資本主義化された社会で、何とも見み出すのかという建築家たちの夢と挫折の歴史が描かれ、バブル経済が世界に広がるスロー・建築家と生人の争奪戦、映画公開直前問題となったプロジェクトのリアルな裏面には驚かされる共通点のあふれる姿が描かれました。この映画と土地し、石山氏に映画制作のヒストリーや、出演した建築家たちについて、お話ししていただきます。公開から10年経った現在、当時映画に出演した建築家たちが夢見た建築の未来を再考します。

石山友美 映画監督/秋田公立美術大学 准教授

1979年生まれ。日本女子大学総合学部に国際学専攻卒業。
磯崎新アトリエ勤務を経て、独立。
コリアムコリア大学 グラフィックデザイン学部、
ニューヨーク州立大学で修士、卒業後、社会理論を学ぶ。
ニューヨーク州立大学 映画研究センター 研究助教授と講師を務め、
日本映画の国際化に貢献した。2015年、
映画監督賞「少佐と夏の花」(2012)。
「だれも知らない建築のはなし」(2023)、2027年からの映画制作。



シンポジウム4 「熊本から考える災害と未来」

日時：11月29日(金) 10:00～12:00

会場：ビーコンプラザ1F中会議室

シンポジウム4では、テーマを踏まえて登壇者の方々より以下の発言がありました。

まずは原田展幸氏より「創造的復興」という言葉について、阪神・淡路大震災から使われ始め、熊本地震では復興政策の最上位概念とされていることや、「復旧」と比較されるという解説がありました。また熊本地震を経験し、被災地の建築家としてできることを考え、実践してきたプロジェクトの説明がありました。建築家が身の丈でできることを実行するという言葉が印象的でした。

末廣香織氏からは、東日本大震災の復興のためにスタートした「みんなの家」プロジェクトの経験より、熊本地震時の「熊本KASEIプロジェクト」の説明がありました。「みんなの家」を補完する周辺環境や家具の整備を行い、被災地支援とKASEI活動を通じて、多くの学びを得たとのことです。

そしてその「KASEIプロジェクト」のさらなる説明を友廣佳太氏、塩谷葵氏より行っていただきました。プロジェクトのコンセプトは、仮設住宅団地の良好な住環境とコミュニティを築くことに「加勢」すること。活動方法は、家具の製作などの「ものづくり」とイベント企画支援などの「ことづくり」の両面の環境改善

〈登壇者〉

末廣香織氏(九州大学大学院教授 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系)

柴田真秀氏(JIA熊本地域会・保存再生会議委員)

友廣佳太氏(九州大学大学院)

塩谷葵氏(熊本大学大学院)

モデレーター：原田展幸(JIA熊本地域会・JIA災害対策会議前委員)

支援を同時に行っていくことです。はじめは熊本地震でしたが、その後の令和2年7月豪雨後は、KASEI r2としてコロナ禍での支援活動を行っているそうです。

続いては「文化財ドクター派遣事業」について、柴田真秀氏より説明がありました。基本的には文化財の技術的支援を行うが、行政の支援があり無登録の建物の支援も可能となる。安易な公費解体の防止となっているそうです。具体的に1次調査(外観調査)、2次調査(内部調査+ヒアリング)、3次調査(実施設計から見積まで)の流れの中でさまざまな難しい面があるが、歴史的建物を守る可能性があるとのことです。

その後、全体でのクロストークを行いました。アートポリスからの積み重ね、行政との連携がある、資金の問題など、熊本の特殊性についてのディスカッションを行いました。また、災害への事前準備について、ネットワークの重要性や経験がものをいうとのご意見がありました。

最後に、JIAとして団体の存在意義や合体ロボットのコクピットでいいのではないかという意見を共有し、閉会いたしました。

(安東崇夫)



シンポジウム4 「熊本から考える災害と未来」

11/29(金) | 10:00～12:00 | ●会場：ビーコンプラザ1F中会議室

自然災害は容赦なく訪れ、日常を非日常に変えていく。私たちは建築家は、災害を前にして立ち止まらなければならない。言葉と発想だけでは難題を克服できません。学びやアイデアも必要ですが、最も必要なのは強い意志に基づく行動ではないでしょうか。熊本は2016年4月の震災と2020年7月の豪雨災害を立て続けに経験しました。その経験から「何をすべきか」として、未来に向けて「何ができるのか」と、災害復興に携わってきたメンバーとして会場の皆さんと共に考えたい。興味深い話や、未来へのヒントが展開されると思いますので、災害経験のある方はもとより、未経験の方もぜひご参加ください。

登壇予定者

末廣香織氏(九州大学教授 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系・大学院) | 柴田真秀氏(JIA熊本地域会 保存再生会議委員) | モデレーター：原田展幸(JIA熊本地域会 JIA災害対策会議前委員)



熊本会場：(左)阿蘇五ヶ所公園住宅復興再建現場 (中) 阿蘇五ヶ所公園住宅復興再建現場 (右) モデレーター 末廣香織氏 柴田真秀氏 原田展幸氏



右から末廣氏、友廣氏、塩谷氏



柴田氏



シンポジウムの様子



原田氏



全員で記念撮影

シンポジウム5 「大分から考える木造と未来」

日時：11月29日(金) 9:30～12:00

会場：ビーコンプラザ3F国際会議室

全国有数の林産県である大分県は、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用した住宅・非住宅の木造建築を推進するとともに、それらを設計する建築家の育成にも取り組んでいます。シンポジウム5では、建築の木造・木質化の現在の立ち位置確認を導入とし、環境・材料・構造等の各視点から多角的に木造について議論を行いました。

平成28年度より、CLTなどの新たな木質素材を活用できる建築士等を育成するために、大分県は、木造マイスター育成事業を始めました。JIA大分地域会は事業開始からこれまでその事務局を務め、お手伝いをしてきました。今回のシンポジウムでは、これまで各分野で技術的なご助言をいただいていた、環境分野の近畿大学岩前篤先生、構造分野の京都大学五十田博先生、材料分野の東京大学青木謙治先生をお招きし、今後の中大規模木造設計に取り組むにあたり、住宅と非住宅の事例を見ながらご意見をいただき、参加者と一緒に議論しました。

まず、住宅の事例として、3階建て・事務所兼住宅・延床面積約120㎡、1階RC造、2～3階木造の動画を見ながら、設計概要の説明を三浦会員が行いました。2025年4月から始まる住宅分野の建築物省エネ法適合義務化に伴い、次世代基準を意識した断熱等級6仕様の建築です。外皮性能を上げるために、高

〈登壇者〉

五十田博氏(京都大学教授)

青木謙治氏(東京大学教授)

岩前 篤氏(近畿大学教授)

司会等：三浦逸朗(JIA大分地域会)

性能グラスウール24kg・厚さ105mm・2重張りを105mm角の柱を重ね構造用ビスで取り付けることで納めています。五十田先生からは、コスト面からも規格材である105mm角を活用することは現実的である。青木先生からは、戦後の拡大造林の杉桧材の大径材の活用を考えると扁平柱105×210mmを活用することも1つの方法ではないかご意見をいただき、地域の木材調達の状況を考えながら設計することが重要であると再認識しました。

次に、非住宅事例として、2階建て・店舗・延床面積約158㎡、木造についても、三浦会員の設計した建築の説明がありました。長尺9m、120×180mmの登梁51本を1mピッチに、合わせ梁とした片流れの形状のものです。大分県内にはJAS機械等級の製材所がありますが対応できないため、事前に山側でヤング係数を測り、強度が必要な部分とそうでない部分に使い分けることで無駄のない設計としています。青木先生からは、無等級材の強度を不用意に使うのではなく、使う場面で材料強度や含水率を把握し、設計施工することが重要。五十田先生からは、大空間をすべて木造で考えるのではなく、適材適所で、設計することが大事。岩前先生からは、建築に関わる温室効果ガス排出量の約1/3を占め、そのうち運用部分が約4/5であり、外皮性能を高めるとともに、設備計画も重要であり、これまでの構造、材料、環境について、バランスよく計画設計する技術力を高めることが重要であるとコメントをいただきました。

表面上の知識だけではなく実践的な技術蓄積を行い、木材の特質にあった設計を心掛けることが重要である、また、お互いの技術情報を共有することで、より良い木造建築を目指すことが大事であると認識できた有意義な意見交換の場となりました。

(三浦逸朗)

木 建 築 の 未 来

The Japan Institute of Architects
SYMPOSIUM 5 2024

シンポジウム5 「大分から考える木造と未来」

11/29 (金) | 9:30～12:00 | ●会場：ビーコンプラザ3F国際会議室

全国有数の林産県である大分県は、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用した住宅・非住宅の木造建築を推進すると共に、それらを設計する建築家の育成にも取り組んでいます。本シンポジウムでは、建築の木造・木質化の現在の立ち位置確認を導入とし、環境・材料・構造等の各視点から多角的に木造の未来について議論します。

登壇予定者 岩前 篤氏・五十田博氏・青木 謙治氏・司会等：三浦逸朗 会員 (JIA大分地域会)、他



岩前 篤
Iwama Atsushi
近畿大学 教授 / 建築士



五十田 博
Imai Hiroshi
京都大学 教授



青木 謙治
Aoki Kenji
東京大学 教授



壇上の青木氏、岩前氏、司会の三浦氏(右から)五十田氏はオンラインで参加された(画面右下)



シンポジウムの様子

シンポジウム6 建築の未来Ⅲ メインシンポジウム

「講演会〈Open-ended Architecture〉×クロストーク」

日時：11月29日(金) 14:00～17:00

会場：ビーコンプラザコンベンションホール

〈基調講演〉

重松象平氏 (建築家/OMAパートナーおよびニューヨーク事務所代表/九州大学大学院人間環境学研究院教授)

〈クロストーク〉

モデレーター：末廣香織 (建築家/九州大学大学院教授/NKS2アーキテクト共同主宰)

パネリスト：重松象平氏

末光弘和氏 (建築家/九州大学大学院准教授/SUEP. 主宰)

石山友美氏 (映画監督/秋田公立美術大学准教授)

■基調講演

建築家重松象平氏が「Open-ended Architecture」をテーマに建築と都市の今後の在り方について語りました。

重松氏は九州大学工学部建築学科を卒業後、1998年からレム・コールハースの事務所OMAに所属し北京で「中央電視台本部ビル」のプロジェクトを29歳にして担当しました。

最近では限定しない建築に興味を持っていると語り、「虎ノ門ヒ



基調講演の様子

ルズステーションタワー」ではアクティビティーバンド、都市の軸線を意識し、その軸線上に人々の活動が集まるような象徴的な場所を目指し、超高層タワーが孤立してしまわないように、地下鉄や道路などの都市の広域ネットワーク、周辺のパブリックスペースとのつながりも強く意識したと述べました。

最後に限定されていない空間を建築家として見つけていくべきで、都市がここまで制御されてくると、建築が都市的な部分を残していくべきではないかと話しました。

■クロストーク

重松象平氏、モデレーター末廣香織氏、パネリスト末光弘和氏、石山友美氏の4名がそれぞれ自己紹介を兼ねた講演を行い、石山友美氏の建築家とは違った目線での話と、「建築の未来」を語らう建築家のクロストークを、わかりやすくモデレーターの末廣香織氏が盛り上げた内容となりました。大会のテーマにふさわしいシンポジウムで会場は大盛況でした。 (田中健一郎、三迫靖史)



クロストーク

THE JAPAN INSTITUTE OF ARCHITECTS
SYMPOSIUM 6
2024
建築の未来Ⅲ

シンポジウム6 [建築の未来Ⅲ] メインシンポジウム

「建築の未来」をテーマにした「基調講演」とパネリストによる「クロストーク」

11/29 (金) | 14:00～17:00 ●会場：コンベンションホール

メインシンポジウムは、重松象平氏 (建築家/OMAパートナーおよびニューヨーク事務所代表/九州大学大学院人間環境学研究院教授) による「Open-ended Architecture」と題した基調講演と、末廣香織氏をモデレーターに迎え重松象平氏、末光弘和氏、石山友美氏のパネリストが登場し、「建築の未来」についてのクロストークを展開します。

<p>基調講演</p> <p>テーマ: Open-ended Architecture</p> <p>パネリスト</p> <p>重松象平 Shigematsu Shigeru 建築家/OMAパートナー兼ニューヨーク事務所代表/九州大学大学院人間環境学研究院教授</p> <p>1973年福岡生まれ、九州大学工学部建築学科卒業。1998年OMAに入社し、2000年から北京で「中央電視台本部ビル」のプロジェクトを担当。2007年OMAのニューヨーク事務所代表に就任。</p>	<p>クロストーク</p> <p>モデレーター</p> <p>末廣香織 Sachiho Kuroki 建築家/OMAパートナー兼ニューヨーク事務所代表/九州大学大学院人間環境学研究院教授</p> <p>1982年九州大学工学部建築学科卒業。1998年OMAに入社し、2000年から北京で「中央電視台本部ビル」のプロジェクトを担当。2007年OMAのニューヨーク事務所代表に就任。</p> <p>パネリスト</p> <p>末光弘和 Sumitoku Hirokazu 建築家/SUEP. 主宰/九州大学大学院准教授</p> <p>1976年福岡生まれ、1999年九州大学工学部建築学科卒業。2001年SUEP.に入社し、2003年から末廣香織氏と共に「虎ノ門ヒルズステーションタワー」のプロジェクトを担当。2007年OMAのニューヨーク事務所代表に就任。</p> <p>パネリスト</p> <p>石山友美 Ikeda Tomomi 映画監督/秋田公立美術大学准教授</p> <p>1979年生まれ、日本女子大学芸術学部放送映像学科卒業。映画監督として活動。2010年「虎ノ門ヒルズステーションタワー」のプロジェクトに参加。2015年「虎ノ門ヒルズステーションタワー」のプロジェクトに参加。2015年「虎ノ門ヒルズステーションタワー」のプロジェクトに参加。</p>
---	---



(左から)末廣氏、重松氏、石山氏、末光氏

大会式典

日時：11月29日(金) 13:00～13:50

会場：ビーコンプラザコンベンションホール

大会式典は、国内から古谷誠章日本建築士会連合会会長以下16名、海外からはAHMAD Saifuddin アジア建築家評議会議長以下12名の合計30名の来賓をお迎えし、川津大会実行委員長の開会宣言で始まりました。松山大会委員長が、「建築の未来」は、一人ひとりの建築家が描くビジョンから始まります。そしてそのビジョンが結集するとき、私たちは社会に、より良い変化をもたらす力を得ることができます。本大会がその第一歩となり、新しい建築の未来を紡ぐ場となることを心より祈念します」と開会のことばを述べました。

続いて主催者を代表して佐藤尚巳会長が挨拶を行いました。

来賓祝辞は、国土交通省住宅局官房審議官の宿本尚吾様と別府市長長野恭絨様から、そしてビデオメッセージにてUIAのGONTHIER Regina会長から賜りました。

また、今年度の6月26日の総会で六鹿正治様、豊島守様、南條洋雄様、森暢郎様、山城東雄様、DOWDELL Kimberly様、SUKHYANGA Asae様、KIM Jaerok様、HAN Young Keun様の国内5名、海外4名の合計9名の方が名誉会員となりました。佐藤会長がお一人ずつ紹介し、ご欠席のDOWDELL様、HAN様を除く皆様に名誉会員証を授与され、記念撮影を行いました。続いて、正会員の中から特に本会に貢献された、進藤勝人様、市村宏文様、中澤克秀様、萬野光雄様、大石雅弘様、本庄正之様の6名の方にフェロー会員証の授与式を取り行い、代表で本庄様に佐藤会長からフェロー会員証とバッジが授与されました。最後に閉会の辞と参加者と関係者の皆様に感謝の挨拶を佐々木九州支部長が述べられ、大会式典は滞りなく終了しました。

(作田耕一朗)



佐藤尚巳 JIA 会長



国土交通省住宅局官房審議官
宿本尚吾氏



長野恭絨別府市長



大会式典の様子



来賓の皆様



名誉会員授与式

名誉会員の集い

日時：11月29日(金) 17:30～18:00

会場：杉乃井ホール4F 研修室A

参加者：27名

大会2日目レセプションパーティーの前に、杉乃井ホテルにて、2024年度新たにJIA名誉会員になられた豊嶋守氏、南條洋雄氏、森暢郎氏、山城東雄氏、六鹿正治氏、SUKHYANGA Asae氏(タイ)、KIM Jaerok氏(韓国)と、既に名誉会員になられている方々との交流を図る「名誉会員の集い」が行われました。佐藤会長、渡邊副会長、筒井専務理事、松山大会委員長、佐々木九州支部長が出席し、佐藤会長のご挨拶のあと、各名誉会員の皆様からご挨拶をいただきました。会場ではワインを片手にJIAの思い出やこれまでの活動について語り合い、終始和やかな雰囲気の中、交流を深める貴重なひとときとなりました。

(佐々木寿久)



会場の様子

ウェルカムパーティー

日時：11月28日(木) 17:00～19:00
会場：ビーコンプラザ3F 国際会議室

磯崎新氏設計のビーコンプラザの3F国際会議室にてウェルカムパーティーを開催しました。参加者は337名と定員を大きく超えての参加があり、人数の関係で会場は同フロアの2会場に分かれていましたが、盛大な盛り上がりを見せていました。

パーティーは、松山大会委員長による乾杯挨拶にて始まり、遅れて参加する参加者が集まった段階で、佐藤会長による挨拶がありました。

会場外では、九州支部会員による九州各地の地酒を振る舞う場があり、各地のお酒を堪能しながら会員間で交流する姿が見られました。パーティーの終盤では、全国各地で活躍するバンカヨコ率いるチームによるマジックショーも催され、会場はショーによる驚きと歓喜の声で溢れていました。

盛大な盛り上がりを見せたパーティーは、「建築の未来」をテーマとした大会の明るい未来を予想させる開幕にふさわしい大盛況の場となりました。(林田直樹)



九州各地の地酒が並ぶコーナー



松山大会委員長の乾杯挨拶



マジックショー



会場の様子

レセプションパーティー

日時：11月29日(金) 18:00～20:00
会場：杉乃井ホテル・スギノイホール ひかり

レセプションパーティーは、大会式典当日の11月29日、18時より、「大分の迎賓館」をコンセプトに作られた杉乃井ホテルのスギノイホールで執り行われました。総勢431名もの参加者が出席し、大きな盛り上がりを見せました。ビュッフェが有名な杉乃井ホテルの料理が評判通り美味しかったと、参加者から数多くの声をいただきました。パーティーは、九州支部の佐々木支部長の挨拶で始まり、佐藤会長挨拶、アルカジアのAHMAD Saifuddin会長の挨拶、松山大会委員長の挨拶後に、大分県知事の佐藤樹一郎氏からもご挨拶をいただきました。乾杯は、日本建築士会連合会会長の古谷誠章氏により執り行われました。

乾杯後は、地元大分の食材を使用した料理と、開放感溢れる空間で十分な懇談の時間を確保し、各会員間の交流が密にできる時間となりました。

最後は川津実行委員長にて閉会の挨拶後、全員による写真撮影を行い閉会となりました。(林田直樹)



記念撮影



アルカジア
AHMAD Saifuddin会長



大分県知事 佐藤樹一郎氏



日本建築士会連合会会長
古谷誠章氏



会場の様子



地元の食材を使用した料理

まち歩き 別府の「たから」と「あら」を考え、提案しよう！

日時：11月28日(木) 10:20～13:00

会場：別府市内～ビーコンプラザ1Fフィルハーモニアホール ホワイエ

参加者：27名

昨年に引き続き、今年も大会初日の11月28日(木)にまち歩き&WSを開催しました。焼き物の街「常滑市」から、湯の街「別府市」に舞台を移しての開催です。

今年のサブテーマは、「共同湯めぐらすように旅する」です。別府市は、日々の市民の暮らしと温泉が密接に関係して、長い歴史と文化を持ちます。別府八湯と言われ、広いエリアで温泉が湧き、おのおの共同浴場を持ち、個々が地域コミュニティの中で独自の文化育んできました。そこに全国から集まった会員が市民の暮らしに分け入り、あたかも「暮らしているように旅をする」ことを企画しました。

事前のJIAマンスで、銭湯で人をつなぐ活動をされている栗生はるかさんに共同浴場を主題にした街づくりの活動について、別府市役所の籠田課長さんに別府温泉の歴史と特徴についてレクチャーをしていただき、皆で広く予習をして臨みました。

■まちあるき

また当日は、地元大分で広く街づくりをされている、大分大学の姫野由香先生に講師を務めていただきました。

当日の参加者は、日頃観光案内のボランティアをされている市民の方3名、大分大学と日本文理大学から9名の学生さん、全国のまちづくり会議の会員14名と姫野先生の計27名です。

全国から集まる会員さんの都合もあり、10:15に別府駅に集合。その後開会式で今回の趣旨と概略説明の後、参加者は所属を離れ、あらかじめ編成されたA～Dの4つの



別府駅に集合

チームに分かれます。約7名で構成される各チームは、当日初対面のメンバー同士なので、まずは簡単な自己紹介と役割分担を決めから始めます。別府市は駅を中心に、南北に貫通するJR日豊本線、東西に走る駅前的大通りを境に東北、南東、北西、南西の4エリアから成ります。この4エリアを前記の4チームがそれぞれ担当し、駅からWS会場となるビーコンプラザまで、約1時間かけて歩きながら、道中にあふれるさまざまな「たから」と「あら」をチームメンバーで協力して拾い上げて、配布されたインスタントカメラで撮影していきます。各エリアで異なる表情を持った街に分類されると同時に、それぞれに複数の共同浴場があり、そこをチェックポイントとして通過しながら、最終目的地を目指します。大切なことは、ファシリテーターとしての役割です。建築家が主導するのではなく、市民や学生さんが主体的に行えるように、視点や気付きを誘導したり、サポートしながら進めることを学び体験することです。

■まちづくりワークショップ

11:40から大会受付横のビーコンプラザ・フィルハーモニアホール横のホワイエ空間を利用してWSが始まりました。各チームに与えられたミッションは2つ。集めてきたネタを、「たから」と「あら」に仕分けし、大きな特徴を炙り出してまとめ

るシートAの作成と、それらを活かしたり、問題解決を提案したりするシートBの作成です。各チームが歩いた地区の地図があらかじめ印刷された模造紙に、撮って来た写真を並べながら、インデックスにコメントを書いて貼って行きます。それをもとにメンバーでディスカッションをしながらテーマを絞り、豊かなまちをつくるための提案をスケッチでまとめていきます。まるで即日設計のような光景で、各チーム手分けしながら作品を創っていきます。会場が大会受付となるメインエントランスの横でもあり、全国各地から集う参加者もWSを覗ける仕組みになっています。

12:40から発表会。各チームが作成したA、Bのシートをもとに発表し、講師の姫野先生に講評していただきました。WS途中から参加いただいた籠田課長さんにも発表の全体を講評していただきました。1時間という非常に限られた作業時間にもかかわらず、さすがは日頃鍛えられた建築家会員の皆さん。市民や学生をリードしながら、手分けして次々と作業を進め、街中に転がる多くの事象の中から、さまざまな歴史や文化の断片を拾い集めて、それを専門知識をもとに分類し、非常に高い次元で提案書にまとめていただきました。姫野先生、籠田課長さんからのいただいた講評も概ねそのような高い評価の内容でした。

今年も完成品は、今後大分地域会の会員を中心にまちづくりを引き継いでいただくための礎となることを願い、地元自治体である別府市に寄贈されました。

その日の晩は、参加者で反省会&懇親会を開催。半年かけて準備を進めて来ましたが、いつもZoom開催で、リアルに会えるのは1年でこの日だけです。今年のまち歩き&WSの是非についての意見や感想を交換しながら来年の千葉大会での話や、日頃全国各地でそれぞれ活動されていることを披露したり、問題や悩みを共有したりしながら、別府の夜は更けていくのでした。

(松島逸人)



WS会場で姫野先生の説明を受ける



WS。各チームに分かれて作業



発表会。各チームに対して姫野先生が講評

「International Presidents' Forum」 国際委員会

日時：11月29日(金) 10:00～12:00
会場：ビーコンプラザ3階小会議室31
参加者：33名

JIA建築家大会で例年開催されるIPF(International Presidents' Forum／国際会長会議)は、JIAの提携協会であるAIA(アメリカ建築家協会)、ASA(タイ王立建築家協会)、KIRA(大韓建築士協会)、KIA(韓国建築家協会)および関係協会の会長・代表者を招いてパネルディスカッション等を行う国際交流イベントです。

別府大会のIPFでは提携四団体に加え、ARCASIA(アジア建築家評議会)、SIA(シンガポール建築家協会)、AIA Japan(アメリカ建築家協会日本支部)からも会長を招待し、「建築家の調達方法」をテーマに各国公共建築における建築家の選定方法や関連する法律等に関するプレゼンテーション、意見交換が行われました。各協会の登壇者から最低価格入札を禁止・制限する規制や、環境および歴史保存ポリシーの維持、地域コミュニティへの関与を求める事例等、日本国内においても参考になる制度の紹介がなされました。今回は会議テーマが実務・事務的であり、建築を紹介するビジュアルがほとんどないイベントであるにもかかわらず、国際委員会関係者以外の会員の方々にも聴講いただき、今後私たちが取り組むべき課題に対する関心の高さをうかがうことができました。海外からのゲスト対応としてIPFのほか、開催地ならではの「別府温泉地獄めぐりミニツアー」を企画し、九州別府の方々がどのようにして火山と地熱のエネルギーを活用し豊かな生活に変換しているのか、知恵と工夫を体感いただけたのではないのでしょうか。

最後に、大会運営ならびに参加協力いただいた全ての方々へ深く感謝申し上げます。
(水本浩二)



会議風景



全員で記念撮影

「建築家のあかりコンペ2024 二次審査・表彰式」 JIA+大光電機株式会社

日時：11月28日(木) 14:30～16:30
会場：ビーコンプラザ3F小会議室32

審査委員長：赤松佳珠子(法政大学デザイン工学部建築学科教授／CAI)

審査員：原田麻魚(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)
須部恭浩(三菱地所設計)
東海林弘靖(LIGHTDESIGN INC.)
村西貴洋(大光電機)

毎年JIAと大光電機の共同主催で開催される「建築家のあかりコンペ」二次審査および表彰式。建築家大会での展示・公開二次審査が恒例となっており、節目となる第15回目が本大会で開催されました。今回のテーマは「ときめくあかり」。一次審査への応募は49名、そのうち5名が二次審査に進みました。残念ながら1名は録画によるビデオプレゼンとなったものの二次審査には4名の方が来場されました。一次審査はA2判1枚でのプレゼン、二次審査ではモックアップも登場。モックアップがあることで一次のプレゼンシートから印象がガラリと変わり、審査員の方も意外性をもって受け入れていた印象でした。プレゼン案は単なる照明ではなく、各々の「ときめき」が表現されていました。

また、審査員の皆さんが多様な方々で実務者でもあることから、審査をしているというより製品化に向けて皆でワイワイと意見を出し合うような雰囲気となり、観覧者も入れ替わりながら立ち見も出て、会場は大いに盛り上がりました。(吉永啓)

最優秀賞：安藤良和「Hotarubi(ホタルビ)」

優秀賞：山本竜也「雫月-shizuku-」

佳作：岩松英里子「ぼつぼつ」

安藤友補「子どもたちの笑顔」

大塚史奈「菜light(しおりライト)」



受賞者・審査員・関係者全員による記念撮影

■ JIA 建築家大会 2024 別府 JIA マンス

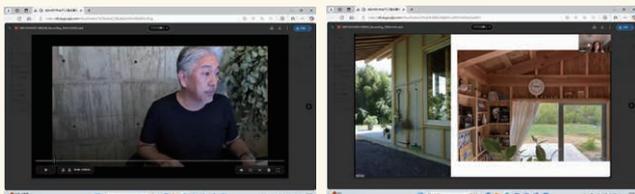
建築家大会開催に先立ち2024年10月を大会マンスとして、さまざまなプログラムを企画し(毎週木曜、金曜/18:00から2時間・計9回開催)、Webにて大会テーマ「建築の未来」に沿った議論を展開しました。(越山明典)

■ 10月3日(木) 10月17日(木) 10月31日(木)

JIA 全国10支部合同企画「注目の若手建築家による建築討論」

モデレーターの木村吉成氏、塩塚隆生氏、畑友洋氏の3名と、10支部から選出された若手建築家12名による建築討論。大会マンスでオンラインイベントとして全3回、本大会(11月28日(木))では対面で、シンポジウム1として開催

10月3日・17日・31日の3日間開催され、各回とも参加者が100名を超えました。登録数は約220名。うち一般と学生を合わせると57%であり、この企画が一般からの支持を集めていると言えます。JIA各支部の登録数は九州支部が最多で25.8%、続いて関東甲信越の15.5%、沖縄の13.4%。各回の登録数は、当日の参加者から見ると、初回は告知時間の問題で少ないと考えます。本企画はJIAの活動を一般へアピールする良い企画といえるのではないのでしょうか。



司会進行は、東海支部長の浅井裕雄氏 10月31日の第3回

→ 関連大会イベント 11月28日(木)
シンポジウム1「注目の若手建築家による建築討論」p.8

■ 10月4日(金)

職能・資格制度委員会+本部建築家資格制度実務委員会

「建築家職能 ~ その未来への礎を探る ~」

参加人数: 60~70名

JAA / JIAが永らく追求してきた資格制度の初心に立ち返り、職能団体の果たすべき役割にも議論が展開

今回の企画は、ややもすると忘れやすく、知ることもなかなかできにくい、建築家資格制度をつくり発展させてきた先人たちの努力とそこに存在する問題点を、改めてみんなで共有し、そこから職能資格制度の未来の道筋を見ていこうというものでした。開催後のアンケートでは、概ねこれまでの経緯、歴史はよく理解できたとの回答を多く頂きました。またJIAの歩みについては大変な努力をしてきたという意見がある一方、堂々巡り、混迷があったとする意見もありました。「登録建築家制度は停滞しているか」という問いには、JIAのPR不足、会員の理解不足、本質的議論の不在のために停滞しているのではないかと意見が多い中、「停滞とは考えない、建築家の存在を社会に伝えていく努力が必要」との意見もありました。「このレクチャーで未来への礎が感じられたか」という問いには、「なかなか厳しい、道のりは遠い」という意見と、「感じられた、会員の声と社会の声から未来の制度が生まれるのでは」という意見がありました。最後に、建築家職能・建築家資格制度全般についての考え方に

ついつい設問では、先に進んでほしい、現在の制度を進化させることができるのではないかと前向きな意見と共に、三団体(JIA、士会、日事連)あるいは五団体(三団体+学会、BCS)が一致できる制度を提案してほしい、また建築士と建築家の違いを明確にしていかなければ、という意見もあり、JIA内部でも建築家職能を議論し、それを社会へ伝える努力が必要であるという印象でした。

反省点としては、プログラムの内容がテキスト中心だったこともあり、ビジュアル面が弱いところがあり、それを指摘する意見もありました。また温故知新ということで過去の経緯を中心に解説しましたが、今後の方向性については議論ができていなかったのでは、教育に言及されなかったのは残念などの声もありました。過去を振り返ることについては、これで一段落したので、今後はより前を向いた議論ができるようなプログラムを考えたいと思います。またこれにあまり関心のない会員にどのようにこちらを向いてもらえるかを考えていくことが必要だと思います。

■ 10月10日(木)

業務委員会ケンバイWG

「事故事例から学ぶ未来へのチャレンジ」

ケンバイの特徴、他団体との違い、他団体からの移行等について、事故事例を踏まえてケンバイのメリットをわかりやすく解説



■ 10月11日(金)

JIAまちづくり会議

「銭湯で人をつなぐ活動/別府のまちづくり/地域を活かす建築家のファシリテーション」

銭湯で人をつなぐ活動をされている栗生はるかさんに共同浴場を主題にした街づくりの活動について、別府市役所の籠田課長さんに別府温泉の歴史と特徴についてレクチャーをしていただく



→ 関連大会イベント 11月28日(木)
「まち歩き 別府の「たから」と「あら」を考え、提案しよう!」
p.16

■ 10月18日(金)

JIA 災害対策会議・JIA 環境会議・JIA まちづくり会議・JIA 保存再生会議

「JIA 4つの心得から考える「いつも」と「もしも」 能登半島地震からみてきたこと」

参加人数: 申込141名、(当日の接続回線数78名)

能登半島地震から見てきたことを各会議から2名が登壇し意見を交換
普段は個々で活動しているJIA四会議が、おのおのの内容を他

会議やJIA会員をはじめとした参加者に知ってもらい良い機会となりました。能登半島地震をテーマとしたこともありましたが、ディテールは異なるものの、それぞれの活動に類似点も見られ、「建築家」という職能の根っこでつながることを確認できたのは新鮮でした。これを機に定期的な交流を深め、個々の知見を深めたり、場合によっては技術的な支援を募ったりなどに発展させたいと考えています。

反省点としては、素人運営だったこともあり、開始から終了までのドタバタ感が拭えませんでした。スマートにするのが必須ではあませんが、担当の分業化や、後任の育成などを進める必要があります。告知期間が1か月ほどあったとはいえ、十分ではなかったと感じています。

■ 10月24日(木)

JIA住宅等連携会議「建築家、働き方をデザインする」

参加人数：合計128名(うちJIA 77名)

「建築家の活動の多様性」の事例紹介から「新しい建築家像」を知り、「働き方開拓」を考える

価格高騰、超円安により、建設費の予算計画は破綻し、計画自体の変更、中止となるケースも多分に聞かれるようになりました。2025年4月からは4号廃止と建築基準法が大きく改正され、省エネ法は全物件適応と、設計事務所の作業は増えるばかりです。アトリエ事務所はこの先どのようにクライアントと建築と、そして経営と向き合っていけば良いのでしょうか。

また効率化、時短、新しい技術の導入、DXの活用、アトリエ事務所のJV、各専門事務所との協業等仕事のやり方は変革の時期を余儀なく迎えるようとしています。一方、新たに建築家の職能を広げ、コトを起し、仕事を生みだし、活躍の場を広げ、そのアプローチは様々です。また近年タウンアーキテクトや公共へのアトリエ事務所に関わり方も課題となっています。それぞれの建築家のチカラを発信し、設計事務所のあらたな「働き方」から、時代を乗り越えるためのヒントを見出します。

参加者の意見、感想、質問など：各地で活躍されている方から直に活動状況を伺い、建築家としての活動の場の多様性に触れることができたように思う。／形式としての建築家像を見事に打ち破る動きをしている方々の活動と言葉に感動しました。それぞれの建築家の皆さんが作るより良い世界の姿に、建築家ができることはこんなに広くて深いものかと大変勇気づけられるようでした。／建築家の職能がどのように拡張されるの



か、示唆に富む内容だった。／小さな設計事務所として、設計業務のみでは、今後、安定した生業ができるか、いつも模索していました。自ら、建築を通して、社会に貢献できるような事業を行う希望と夢ができました。／作品の解説ではなく、働き方という切り口から登壇者の考える建築家としての職能や建築を作るという行為そのものを考えさせられるいいセミナーでした。／それぞれが、それぞれの環境下で、主体的にあくまでもArchitectureの延長線上で実践(活動)できることをやっていることを感じ、大変刺激になりましたし、勇気を頂きました。／登壇者の皆様の、それぞれの働き方の奥深さ、バリエーションの豊富さ、エネルギーに感銘を受けました。／タウンアーキテクトを実践している若い建築家たちの活動に、感動した。／登壇された4人の人選、ファシリテーター、ともに素晴らしく、近來稀に見る有意義な企画だったと思います。きっと、多くの視聴者が(主に建築家でしょうが)新しい視点を得られたものと思います。／建築家からはじまる、働き方=職能と生き方、建築の定義の拡張。建築家の職能と職域の拡張 といったことを共感した。／建築家の働く場は、これからも拡大して、社会に役に立つ職能であり続けると感じました。登壇者の皆様に感謝です。／専門問題、経営能力、大手事務所と個人事務所の違いなど地方や小さな事務所の厳しさを感じました。これからの生き残りを議論する会も期待します。／現在学生で、将来建築に携わっていく身としてどう建築に向き合ったり、仕事として働いて生きていくのかであつたりに悩んでいたため、各地の建築家の方々の働き方について学ぶことができて良かった。／大変刺激的なセミナーでした。企画内容がととてもよかったです。建築家の新しいカタチをご紹介いただきました。発想であつたり、着眼点が変わることで見えてくるものも違ってくるものだと改めて考えさせられました。

総評：時代にのったテーマ、今後の活動、建築家の職能と可能性について考える良い機会となり、大変好評をいただきました。アトリエ事務所目線でのこのような企画を引く続き開催を期待される声もありました。学生に是非見ていただければ、就職の、将来の参考になるのでは、捉えています。

■ 10月25日(金)

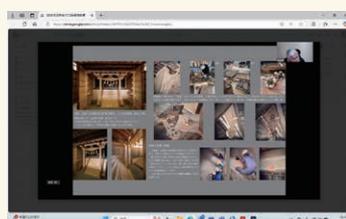
新資格制度を推進する特別委員会

「ゼネコン設計者と棟梁の実務を通し建築家を考える」

当日は約50名の参加者 会員外は一般と学生を合わせると25%ほど参加。登録割合 JIA 会員 72% 一般 21% 学生 4%

優秀なゼネコン設計部、棟梁の方々をお迎えし、今の社会背景や市民目線から「頼れる建築家」を考える

1ゼネコン設計者がJIAをどう見ているか、設計手法などを通じ職能、職域の議論からJIAとの立ち位置を確認できた会と言えます。



法人協力会サミット

日時：11月29日(金) 10:00～11:30

会場：ビーコンプラザギャラリースペース

〈参加者〉(各支部協力会より)

東北支部：4名	北陸支部：4名	関東甲信越支部：10名
東海支部：3名	近畿支部：3名	中国：1名
四国支部：1名	九州支部：4名	沖縄：3名

協力会サミットは各支部協力会より合計33名が参加して開催されました。

はじめに、九州支部福岡地域会協力会の西井会長より開会の辞が述べられ、大会実行委員長の川津氏からご挨拶をいただきました。

■本サミットのテーマと目的

今回のサミットのテーマは「**建築家と協力会の未来志向の関わり方**」と定め、各地の協力会の意見を集め、建築業界の未来を考えること、協力会の役割と関係性の深化を目指すことを目的に、各支部ごとに活動内容や意見の報告がありました。

■参加者の意見と今後の展望

各支部の報告後に、協力会の現状と課題について話し合いが行われました。ここでは、

- ・ 協力会のメンバーが固定化されており、新しい参加者が少ない。
- ・ 協力会各社の営業内容、サービス、見学会などの活動が見えにくい状況がある。
- ・ 協力会と正会員の間に溝があり、信頼関係の構築が課題。などが挙げられました。

また参加者からは、

- ・ 参加者からの意見を取り入れた運営が行われている。

- ・ 参加者間の信頼関係が深まり、イベントの成功に寄与している。

などの、プラスの意見がありました。

そして今後の展望として、若い世代の育成が課題であり、協力会の活動を通じて解決を図ること、地域会や協力会の活動を通じて、参加者間の信頼関係をさらに深めることが期待されるなどの意見が出ました。

■今後の課題とまとめ

これまで出された意見をもとに今後の課題として、

1. 若手メンバーの育成方法の模索が必要。特に東北および広域地域での取り組みが求められている。
2. JIA活動へ参加率低下が複数の地域、特に北陸および東海地域で顕著である。
3. 固定化した高齢メンバーの問題が、特に北陸地域での協力グループの持続性に懸念がある。

ということが挙げられます。このサミットで挙げた具体的に意見を次回の大会に反映していく必要を痛感しました。

最後にJIA担当者の大会協力会タスク長である鹿児島地域会協力会の宮崎氏から、「本日のお話は、私たちJIA内部でも共有し、正会員が考えるべき課題として周知してまいります」とご挨拶をいただき、西井会長の閉会の辞をもって、サミットは終了しました。
(西井博文)



お話しする福岡地域会協力会西井会長



意見を述べる参加者の皆さん



サミットの様子



サミットの様子

協力会展示

日時：11月28日(木) 13:00～17:00

11月29日(金) 10:00～16:00

会場：ビーコンプラザ1階ギャラリースペース

参加企業：26社

協力会の皆様には日頃よりJIA活動に多大なご協力とご支援を賜り、心より感謝いたします。本大会では、全国各地から多数の建築家が集結する貴重な機会において、少しでも恩返しができるほどの思いで、協力会展示計画を実施いたしました。

大会テーマ「建築の未来」に基づき、展示の募集を行ったところ、当初予定していた20社を大きく上回る26社から応募があり、九州各地からご参加いただきました。すべての応募企業にご出展いただく形で計画を進めました。

展示方法では、可能な限りペーパーレス化・デジタル化を推進し、会場でのカタログ配布は最小限に留め、QRコード等を活用したPR活動をお願いしました。

また、展示計画においては、本大会の他展示ゾーンとシームレスに繋がる配置を行い、来場者が自然と足を運べる導線計画を実施しました。さらに、特設カフェを設け、休憩や昼食会場としての機能に加え、協力会サミット会場としても活用するなど、多面的な利用が可能な空間を提供しました。

展示室では、大型モニターを使用して各企業のPR動画をリピート放映したほか、個別PR用の共有モニターも設置し、出展企業がより活発にPR活動を行える環境を整えました。

開催中は、展示ゾーンに多くの来場者が訪れ、活気と賑わいのある協力会展示となりました。期間中、来場者や出展者の皆様から「非常に良かった」とのお声を多数いただき、安堵するとともに、課題もいくつか確認されました。これらの反省点については、今後の大会に活かしていきたいと考えております。

(宮崎秀志)

協力会展示MAP 会場：1Fギャラリースペース

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| A (株) 総合資格 大分支店 | N 九州第一工業 (株) |
| B (株) ミラタップ | O (株) 桐井製作所 福岡第二営業所 |
| C (株) エフワンエス | P (株) コンクレタス |
| D 三協立山 (株) 三協アルミ社 | Q (株) マルホン |
| E 九州木材工業 (株) | R 東洋ステンレス研磨工業 (株) |
| F 三興金属工業 (株) | S ビーエス・コンストラクション (株) |
| G 田島ルーフィング (株) 福岡営業所 | T TOTO (株) |
| H (株) LIXIL | U 大阪ガスケミカル (株) |
| I チャネルオリジナル (株) | V (株) 孝洋商事 |
| J 日創プロニティ (株) シキファニチア | W DNライティング (株) 福岡営業所 |
| K 大分県木造展示関連 | X エイテックス (株) |
| L タココー (株) | Y インターマン (株) |
| M 佐伯広域森林組合 | Z 新日本法規出版 (株) |



展示会場入口



大型モニターを使用した展示室



来場者でにぎわう



カフェショップ

各種展示

日時：11月28日(木) 13:00～17:00

11月29日(金) 10:00～16:00

会場：ビーコンプラザ1階ギャラリースペース

第1回九州建築新人賞受賞作品展

2023年度に創設した九州建築新人賞は、九州を拠点とする若き建築家の登竜門として新たな評価軸となり、これからの九州建築界をリードする建築家を輩出することを目的としています。

第1回の九州建築新人賞は2023年9月1日～10月31日に応募のあった42作品から10作品が一次審査に進み、その後現

地審査・最終審査を経て、「江津ハウス」(矢橋徹/矢橋徹建築設計事務所)、「GALLERIA MIDO BARU」(光浦高史/DABURA.m)の2作品が受賞しました。審査員は、塩塚隆生氏、田中俊彰氏、柳瀬真澄氏の3名が務めました。今回の別府大会では、一次審査に進んだ10作品の展示を行いました。

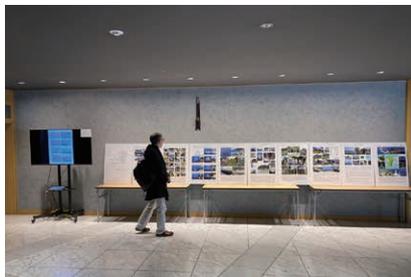


あかりコンペ展



建築家のあかりコンペ2024のテーマは「ときめくあかり」。二次審査・表彰式が今大会で行われたのに合わせて、応募作品の展示が行われ、二次審査に進んだ5名の方の応募作品が紹介されました。審査に合わせて作品をご覧になる人も見られました。

九州支部地域会展



九州の島々は海流でつながっており、九州の各県は「海流と海風」を共有しているという切り口から、九州支部8地域会で“島”をテーマとし、各地域会がその風土と建築・文化について考えパネルを作成し、九州の自然や文化の違いを展示しました。

組織設計事務所展



組織事務所展では今回の大会に協賛をいただいた梓設計、石本建築事務所、NTTファシリティーズ、久米設計、佐藤総合計画、昭和設計、大建設、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計のうち8事務所がパネル展示、6事務所が映像展示で自社プロジェクトなどについて紹介しました。

ケンバイ・建築家会館



ケンバイについては、ケンバイワーキングの取り組みと、事故例を図解したものをボードに展示しました。

また、初代社長前川國男氏によって、「処士横議」の場として設立された建築家会館の紹介として、ホール・クラブバーの写真、前川國男氏の文章も展示されました。

まちと建築展

日時：11月2日(出)～11月28日(金) 10:00～17:00

11月29日(金) 10:00～16:00

会場：ビーコンプラザ1階エントランスホール

本展は、全国大会の1か月前から開催され、全国大会の広報活動も兼ねて実施されました。建築模型を展示し、市民の皆様には建築に触れていただく機会を提供することで、建築への関心を深めていただくことを目的としています。

「ビーコンプラザ」において、九州で活躍する建築家のプロジェクト模型を26点展示し、多くの方に気軽に立ち寄りいただき、建築とまちの関係性について考えていただく場となりました。

「まちと建築展」は、今回で3回目の展覧会で、九州の建築家たちが、その土地のスタイルや、まちへのまなざしを携え、魅力ある建物を九州の土地でつくり続けていることを広く知っていただくための展覧会です。今回の展示では、将来の建築家を夢見る学生たちや、自分たちの住む街の建築に興味を持つ市民の方々に、建築家の仕事や思想を伝えていくことを目指し、まるで模型の中に入り込んだかのような臨場感が味わえる模型をメインに展示しました。2,000人を超える来場者数を記録し、地元メディアでも大きく取り上げられるなど、大きな反響を呼びました。特に、別府市内の建物の模型展示には、多くの市民の方々が足を止めて興味深くご覧になっていました。模型を通じて、建築の面白さや奥深さを体験していただいたことと思います。今後も、このような機会を通じて、建築の魅力を多くの方に伝えていきたいと考えております。(村上明生)

●まちと建築展のHP

<https://www.jia-9.org/archive/fukuoka/machiken/>



未来
2024
「建築の未来」
JIA 建築家大会2024 別府
11/28(土) 10:00-16:00

**KYUSYU
TOWN+
ARCHITECTURE**

11/2 (SAT) → 29 (FRI)

place and time 別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」
エントランスホール 入場無料 10:00-17:00
11/2 [SAT] 13:00-17:00
11/29 [FRI] 10:00-16:00

九州で活躍する建築家の
建築模型をのぞきこもう！

まちと
建築展

LET'S HAVE FUN! BEPPU

JIA

大会の舞台裏

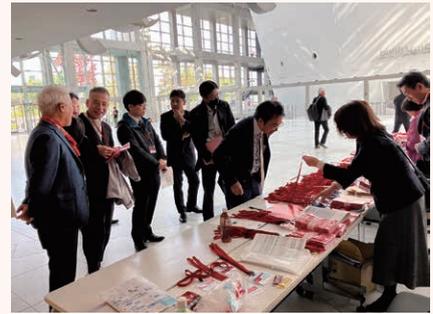
●受付



本番前の受付準備も入念に



参加者に渡すパンフレットと名札を揃える



受付開始



QRコードを読み取り
大会登録

●まちと建築展



板材を用いた展示台の土台を製作



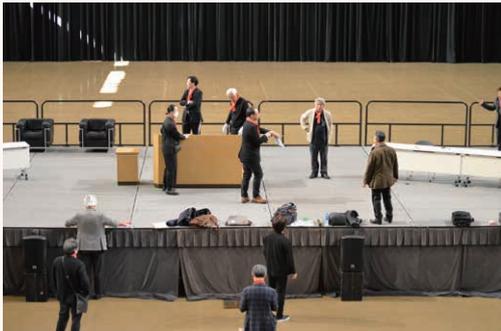
展示作品を見え方を確認しながら置いていく

●大会サイン



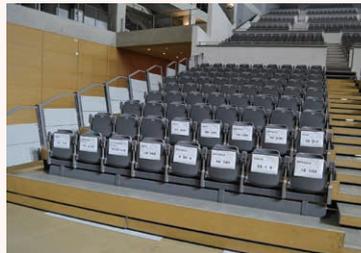
大型の大会木製サインをエントランスに設置

●大会式典



限られた時間の中で大会式典の準備を行う

来賓の方の座席も準備完了



準備も終わり、明日からの大会に向けて
パワー投入

●メインシンポジウム



4名のパネリストの座る位置を確認 (p.13参照)

●初日朝礼



いよいよ初日。輪になって朝礼を行い士気を高める

別府温泉ナイトⅠ JIAバンドパーティー 2024@別府

日時：11月28日(木) 20:00～23:00

会場：カッパーレイブンス (Copper Ravens)

別府の温泉街の路地裏にひっそりと佇むライブハウス「カッパーレイブンス」。昭和の妖しげな雰囲気が漂い、ネオンが灯り始めるころ、会場には多くの音楽好きが集まり、熱気が満ち始めました。20時よりライブがスタートし、トップバッターは“尚巳ちゃんと仲間達”による「BOSAバンド」。佐藤会長のサククスも響き渡り、その音色に聞き惚れました。続いて、東北・沖縄支部をはじめとする混成バンド「ツーホ・クシーバ・チャンプルー」がJIA音頭を熱唱し、会場のボルテージを一気に引き上げました。さらに、70年代ロックサウンドを大音響で響かせた「すご〜いバンド」、そしてJIAバンド文化の先駆けである「ノッキン オン 四国」が会場を更に盛り上げる圧巻のステージを披露しました。前回の常滑大会で雨天中止となった無念の3バンドの音が鳴り響くJIAバンドパーティーとなりました。

終盤ではサプライズで松山大会委員長の誕生日を祝い、会場は温かい雰囲気に包まれました。ラストナンバーの《勝手にし

やがれ》では出演者と70名の観客が一体となり、大盛り上がりでのフィナーレ。音楽を通じてJIAメンバーの結束がより深まる、心に残る熱いひとときとなりました。(有吉兼次)



松山大会委員長の誕生日を祝う



雨天中止となった前回の無念を晴らしたJIAバンド

別府温泉ナイトⅡ 別府夜の大会!

日時：11月29日(金) 21:00～25:00

会場：カッパーレイブンス (Copper Ravens)

大会2日目の夜、レセプションパーティー終了後、前夜に引き続き、カッパーレイブンスにて「別府夜の大会!」が開催されました。前日のバンドパーティーに続き、再び多くの参加者が集い、親睦を深める賑やかなひとときとなりました。

この交流会には、レセプション後にもかかわらず、メインシンポジウムにご登壇いただいた重松象平氏、末光弘和氏、末廣香織氏も駆けつけてくださり、全国から集まった建築家たちと

ともにリラックスした雰囲気の中で語り合う場となりました。

松山大会委員長、川津大会実行委員長からの感謝の言葉に続き、ミラーボールが煌めく会場では、日中の真剣な議論とは一味違った、和やかで自由な交流が広がりました。

この「別府夜の大会!」では参加者同士の新たな繋がりが広がり、大会の一連のプログラムに彩りを添え、参加者の皆様にとって忘れがたい思い出となったことと思います。

(有吉兼次)



JIA 建築家大会 2024 別府エクスカッションにご参加いただいた皆様、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。
 「建築の未来」というテーマのもと、大分と北九州では磯崎新建築を巡るコースとして、熊本は復興と再生を中心に修復塾との合同ツアーといたしました。ツアーを通じて、未来の建築に向けての新たな視点や建築の可能性を感じ取っていただけたのではないのでしょうか。
 これを機会にまた九州へ足を運んでいただけると嬉しく存じます。
 (エクスカッションチーム長 竹宮浩一郎)

エクスカッションS 特急「A列車で行こう」To 湯布院 JR九州の特別貸切列車で行く日帰り湯布院散策ツアー

日時：11月28日(木) 11:00～17:00 参加者：72名
 別府駅出発 → JR由布院駅到着 → 湯布院自由散策(2時間) → JR由布院駅出発 → 別府駅 → ビーコンプラザ到着

特急「A列車で行こう」とは、JR九州が熊本駅～三角駅間を鹿児島本線・三角線経由で運行する臨時特急列車ですが、今回のJIA建築家大会2024別府エクスカッションSでは、この特別な列車を貸し切り、通常は運行されていない「別府～由布院」間を特別運行しました。11月28日、澄み渡る秋晴れのもと、参加者は10時30分に別府駅に集合。11時00分に総勢72名を乗せた列車が由布院へと出発しました。車内では「四季の味 ぎんなん」の特製弁当が配布され、大分の秋の味覚を存分に味わ

うことができ、参加者からも大変好評をいただきました。

由布院到着後は、コミコアートミュージアムや由布院駅周辺を約2時間自由散策。玉の湯旅館では、設計された鮎川氏の取り計らいで、建物内を開放していただき、湯布院の自然と建築の密接な関係を堪能しました。各所でゆったりとした時間を過ごした後、再びA列車に乗車し、別府へと帰路につきました。移動中は、車窓から美しい紅葉を眺めることができ、特別運行ならではの魅力を満喫する貴重な体験となりました。(有吉兼次)



A列車の旅

湯布院のまちなみ

(上) 由布院駅に到着
(下) コミコアートミュージアム

エクスカッション1 磯崎新建築のいま 大分編 大分市内の磯崎建築を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 9:00～17:30 参加者：23名
 大分駅出発 → 大分県立図書館 → アートプラザ → 岩田学園 → 大分駅解散

大分市に点在する磯崎建築を見学する大分編では、日本文理大学建築学科教授の島岡成治先生の説明のもと3作品を巡りました。

「大分県立図書館」では天井にコンクリート製の大きな円盤が取り付くエントランスホール、百柱の間と呼ばれる閲覧室をはじめ、バックヤードや屋上を見学しました。

次に訪れたのは、「芸術文化複合施設アートプラザ(旧大分県立大分図書館)」です。ここでは現在の状況とは違う当時の写真をスライドで説明の上、60年代ホールや磯崎新建築展示室、バックヤードを見学しました。

昼食は参加者に大分の郷土料理である「りゅうきゅう」と「とり天」を堪能していただきました。

最後に訪れたのは「学校法人岩田学園」です。現存最古の作品という1号館と2号館は校舎として現在も使われ、学園理事に説明をいただき当時の図面を閲覧の上学園内全体を見学。教室や体育館、学生寮食堂の内部まで見学でき、成長する磯崎建築の軌跡を満喫していただけたのではないかと思います。

(一宮嘉宏、西村友吾、高橋大介)



大分県立図書館



アートプラザ



岩田学園

エクスカッション2 磯崎新建築のいま 北九州編

北九州市内の磯崎建築を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 8:30～19:30 参加者：25名

大分駅出発 → 北九州市立美術館 → 北九州市立中央図書館 → 北九州国際会議場・西日本総合展示場 → 小倉駅にて1次解散 → 大分駅にて2次解散

本編は、磯崎氏の事務所に在籍されていた西岡弘会員のアテンドのもと、4作品を巡りました。

まずは「北九州市立美術館」を見学しました。裏話として、磯崎氏は、外壁と軒裏を同素材で考えていたそうですが、当時の担当者が別素材にしてしまったため、激怒されたらしいです。ただ、時もう既に遅しということで、軒裏はスパンドレルのままになっています。その後、再建が進む小倉の巨過市場付近で昼食休憩を取りました。

次に「北九州市立中央図書館 文学館」を見学し、「北九州国際会議場・西日本総合展示場」を訪れました。「国際会議場」は貸切の催しのため、館内は見れず外観のみの見学となりました。

「西日本総合展示場」では、なぜ屋根に断熱を施していないか等、面白いお話をしていただき、アテンドした我々も楽しいひと時となりました。

(塩釜直人、高濱和久)



参加者全員で記念撮影



北九州市立美術館



北九州市立中央図書館



北九州国際会議場



西日本総合展示場

エクスカッション3 熊本震災遺構巡り＋文化財修復塾ツアー

阿蘇神社、震災ミュージアム、熊本城等を見学する貸切バスツアー

日時：11月30日(土) 9:00～17:30 参加者：23名

大分駅出発 → 阿蘇神社 → 京都大学火山研究センター → 熊本地震震災ミュージアム → 熊本城 → 熊本城で1次解散 → 熊本空港で2次解散 → 大分駅で3次解散

参加者20名スタッフ5名のうち、修復塾受講者および修了者はスタッフを含め12名。バスの中では鱈坂徹さんに解説をお願いし、8時間の修復塾ツアー(現地講習)となりました。また、佐藤尚巳会長も参加されました。

「阿蘇神社」熊本地震で倒壊した国指定重要文化財「阿蘇神社楼門」を見学。新たに鉄骨フレームを挿入し、耐震補強を行っていました。破壊された部分に新木材が継木され、補修箇所が判別できました。

「京都大学火山研究センター」地滑りによる被害が大きかった同センター(国登録有形文化財)はジャッキアップによって杭を設置し、基礎も大改修を施していますが、外観は地震前と大

きな変化はありませんでした。窓枠や暖炉、階段等見るべき箇所は多く感じました。

「震災ミュージアム KIOKU」o+hによる新しい展示棟は雄大な阿蘇の風景を曲面の屋根で切り取り、ひと筆書きのような平面で構成しています。そして旧東海大学阿蘇校舎の震災遺構の建物展示。地表に現れた断層の保存展示も見ることができます。

「熊本城宇土櫓」国重要文化財である宇土櫓の解体作業を見学しました。1927年に解体修理が行われ、約100年ぶり修復となります。壁と屋根瓦を撤去した軸組だけの状態で非常に面白い経験でした。今後どのような復原を行うのか興味深く感じました。

(長野聖二、田島正陽)



阿蘇神社



京都大学火山研究センター



震災ミュージアム KIOKU



熊本城宇土櫓で解体作業を見学

赤く統一されたデザインが今回の大会を美しく彩りました。フライヤー、アクセスMAP、てぬぐい等のグラフィック全般を担当されたデザイナー SHIROKUROの野口剣太郎氏、大会公式HPの制作・運営に携わり、SNSの活用やWebと会場の連携を図るなど、大会の新しいあり方に大きく貢献されたアトリエサンカクスケールの上栗望氏、会場で大きな存在感放った「未来のドラム缶」を制作した鹿児島地域会宮崎秀志氏、公式HPの動画制作に携わった映像作家の藤原次郎氏、今回報告動画配信を手掛けたスタジオネオの伊波サチヨ氏にお話をうかがいました。

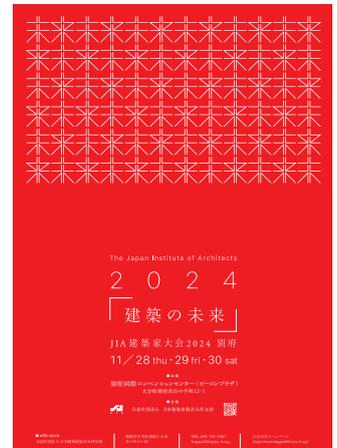
グラフィックデザイン

「建築の未来」というテーマを表現するにあたり、「建築の向かう未来」「建築家の巡る思考」「別府に集う」などから方向を示す矢印を用いて“未来”の文字をロゴ化しました。ロゴと色を決める際、さまざまなツールへ展開すること、会場装飾イメージなども先に想定して提案し、運営メンバーのみなさまと膨らませて決定しました。多くの方々が関わるイベントですが、最終イメージを共有することで、一貫性のある表現が完成しました。建築とグラフィックDESIGNの未来も感じていただければと思います。(野口剣太郎)



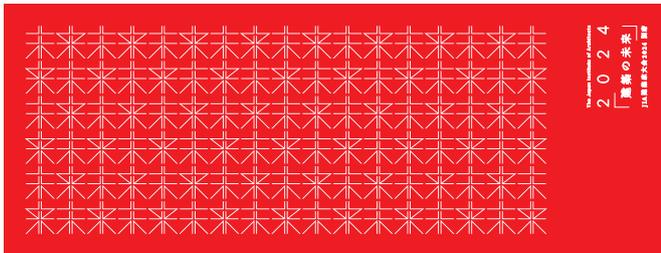
オフィシャルグッズとしての手ぬぐいは、事前購入者と九州支部スタッフ、受付・本部スタッフに配布されました。ネクタイのようにする人、スカーフのように巻く人、カバンに付ける人、使い方もそれぞれです。

●大会ポスター



※フライヤーは、p.10-13に掲載しています

●手ぬぐい



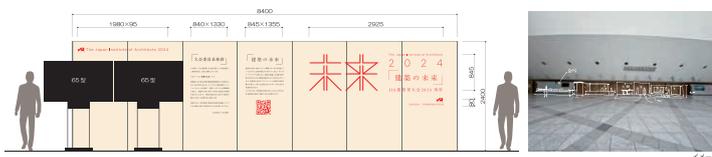
関係者が皆手ぬぐいを着けて記念撮影

会場デザイン

会場デザインは、福岡地域会の村上明生氏と鹿児島地域会の宮崎秀志氏が手がけました。受付回り、展示コーナー、案内板の配置・設置など、スムーズな動線を考慮し、グラフィックデザインのコンセプトや会場であるアートプラザの雰囲気に合わせた会場をつくりました。

●会場デザインイメージ

会場デザイン (エントランスホール)
S-100

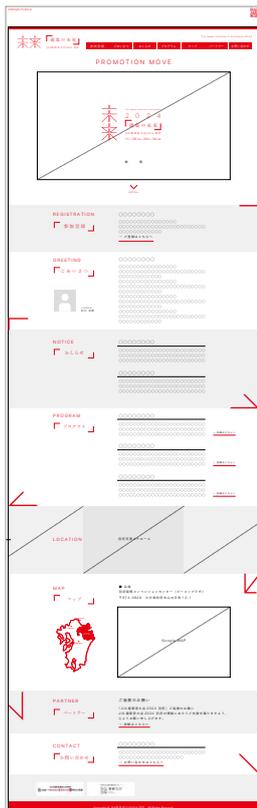


エントランスホール (東エントランスホール) 2400x4700
S-100



エントランスボード サイン W2400xH1200 (出書き(テープ転写)に変更)
S-100





デザイナー野口氏によるHP初案



大会公式ホームページ

日頃、九州支部ホームページの運営をさせていただき、JIA建築家大会2024別府でも、大会公式ページを制作・運営をお手伝いさせていただきました。

紙媒体の使用を極力抑え、Webサイトを活用することで大会を運営していくという、次世代に向けた新たな広報手法への挑戦と熱意は素晴らしく、プログラムが次々と決定する中で、随時情報を更新しながら進めてまいりました。

また、野口さんが手がけられたデザインの力をお借りしつつ、WebとSNSを連携させることで、実行委員の熱い思いが伝わる、動きのある魅力的な発信を目指しました。さらに、フライヤーやパンフレットをWeb上でダウンロードできる形式とし、変更が生じた際にも迅速に対応できるよう工夫しました。

またInstagramやFacebookを活用し、若い世代のフォロワーを獲得し、11月のSNS閲覧数は10.5万回を超えるという大きな成果を得ることができました。会場では、従来のように厚いパンフレットを持ち歩く姿はなく、参加者は自身の携帯端末を活用。Web上のデザインと会場の空間デザインが連動することで、よりスムーズな動線が生まれ、デジタルならではの利便性と新しい大会のあり方を感じることができました。（上栗望）

●未来のドラム缶



本業を犠牲にしてまで、なんでここまでやるの？と愚痴をこぼしつつも、実は楽しんでた自分がいたことに、今さら気がつきました。当初は張り切りすぎてCGを作ったりもしましたが、空回り感があり…。相変わらず空気を読めない性格は変わらず、めげずにまた何か爪痕を残そうと画策していました。そこでひっそり、いや強引にメインホールに置かせてもらったのが、名付けて「未来のドラム缶」です。事務所で丸1日かけて製作し、重量40kgに腰を痛めつつ、自家用車で鹿児島から搬入。組み立ては鹿児島地域会メンバーと周辺的女性陣が参加してくれ、インパクトドリル片手に何とか完成、設置できました。この深紅の「未来のドラム缶」は、来場者が最初に目にするオブジェとして、大会への期待と高揚感を与えられた……と勝手に自負しています。（宮崎秀志）

●公式ホームページ動画制作



僕の制作手法はノーナレで情景を重ねていくもの。今回は大分県其自然、別府の情緒、そして磯崎新氏の作品を交えること。磯崎氏の作品を目前にして、その撮影の難しさに直面。それは建築に正面が無い。暗示がある。これを読み解かないと撮れないこと。そのため磯崎氏の本を必死で読み写真を観た。正解ではないにしろ何か捉えられたと。また機会があればその「磯崎新の謎」ことはじっくり。（藤原次郎）

●報告動画制作・配信



大会アーカイブ動画
JIA九州公式
Instagram



大会アーカイブ動画
YouTube

別府大会では、InstagramやYouTubeでの動画発信を行うため、大会参加者としての視点で自分のスマホで大会の様子を撮影していきました。その中で見た世界は、建築家や九州支部のみなさんの魅力を痛烈に感じるものでした。

建築家って地域のこと、未来のこと、どうすればよりよくなるかを真剣に考えて、その能力を使って本気で実現していこうとしている。デザインにおいても、最高に魅力的にアプローチしてくれる。そしてこの大会で感じたのは建築家って、楽しくて多才！未来における建築家の存在の意義を確信しました。九州支部の方々の熱い思いに触れ、温かいものを胸に東京に帰りました。（伊波サチヨ）



別府市立図書館など26点の建築模型を見ることが出来る

個性豊かな模型で楽しむ 「ピーコンプラザで「まちと建築展」

九州建築家協会（JIA）の建築家展示「まちと建築展」が29日まで、ピーコンプラザで「JIA建築家大会」の24日別府料。公財団法人日本建築家協会（JIA）が主催する福岡地域が主催した。28、29日「ピーコンプラザ」で「JIA建築家大会」の24日別府料。公財団法人日本建築家協会（JIA）が主催する福岡地域が主催した。

人々に、その建物で暮らすだけでなく、人々に、建築家の仕事や思想を伝えていく場として企画。

「個性豊かな模型で楽しむ ピーコンプラザで「まちと建築展」」
（『今日新聞』2024.11.18 第1面）



日本建築家協会の建築家大会が別府市で開催＝別府市のピーコンプラザ

「建築家、別府で未来議論 日本協会がシンポや講演」
（『大分合同新聞』2024.12.6）

ビルスペースデザイナーが自身で建築家としての作品を紹介し、都市生活の在り方を説明。トリーベントでは、直松さんらが入居後、開かれた。全

日本建築家協会（JIA）佐藤岡田会長が、11月26日に大分県別府市で開いた「JIA建築家大会2024別府」で、建築家の重松象平氏（OMA・パートナー）兼、ニューヨーク事務所代表兼、九州大学大学院人間環境学研究所教授）が基調講演し、写真。テーマは「Open-ended Architectural e」。

キーワードは「Open-ended」

建築家・重松象平氏講演 限定しない空間提唱

「最近では「Open-ended」という限定しない空間、空間に興味を持って、日本経済で育つてきたので、建築、空間に興味を持って、近代の高層ビルが知られてきた。当時（90〜10年代）の中国で高層ビルを建てた」と振り返った。

建築デザインを手掛けた「虎ノ門ヒルズ」を「東京都市圏」に居住、世界各地を主なプロジェクトに手がけた。重松氏は「石川下がり」の限定しない空間、空間に興味を持って、日本経済で育つてきたので、建築、空間に興味を持って、近代の高層ビルが知られてきた。当時（90〜10年代）の中国で高層ビルを建てた」と振り返った。

「キーワードは「Open-ended」建築家・重松象平氏講演 限定しない空間提唱 JIA 建築家大会」
（『日刊建設工業新聞』2024.12.11）

「廃墟」から「空間」「環境」を照射

旧大分県立図書館で磯崎新シンポジウム

20年スパンで捉え自己変容

「20年スパンで捉え自己変容」と題して、磯崎新氏が講演した。磯崎氏は、1970年代から現在まで、建築界で活躍し、数々の代表作を生み出した。講演では、自身の建築思想や、建築界の現状について話した。

立方体あえて原点に

立方体あえて原点に」と題して、磯崎氏が講演した。磯崎氏は、建築の原点は立方体にあると述べ、自身の建築作品について話した。講演では、自身の建築思想や、建築界の現状について話した。

「「廃墟」から「空間」「環境」を照射 旧大分県立図書館で磯崎新シンポジウム」
（『日刊建設通信新聞』2024.12.4）

いい仕事をしたい
建築家のための

建築家賠償責任保険

(建築家特約条項セット賠償責任保険)

[ケンバイ]

JIAケンバイは、1971年の創設以来50年以上、
誠実な建築家の皆さまをサポートし続けている
歴史ある保険制度です。
お客様に対するより良い提案に向けて
頑張る建築家を応援します。

株式会社 建築家会館



BESTパートナー
大樹生命
日本生命グループ

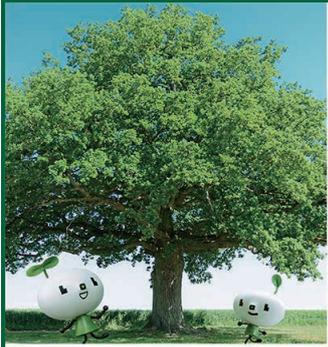
よりそう保険。

大樹 Taiju Select
セレクト

無配当保障セレクト保険

あなたにぴったりの保障を自由にセレクト!

大樹生命保険株式会社 公共・広域法人営業部
〒100-8123 東京都千代田区大手町 2-1-1 TEL:03-6831-8840
https://www.taiju-life.co.jp/



世界最高水準の森林管理により
安定供給可能なアメリカ広葉樹



AMERICAN HARDWOOD COUNCIL

AERIAL COMPUTER



60万人突破!

多岐にわたるサービス



合格のその先へ。

1級建築士
合格実績 **No.1**

51.4% 54.8%

総合資格学院



miratap



株式会社アーキテツク顧問
https://www.architanz.com

ARCHITANZ



AZUSA SEKKEI



ISHIMOTO



NTTファシリティーズ



FONE N
-ALL NEEDS-

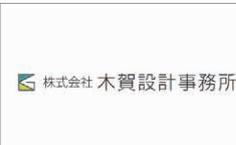


内設計工房
Yen architectural design office

マンション改修から木造住宅まで
新しいライフスタイルを提案します



株式会社木賀設計事務所



KUME SEKKEI



建賛会 kensankai

北九州建築設計士連合会(KAG)と
日本建築学会 協会北福岡地産会(JA)の連携の元、
協会の手業向上発展と会員相互の
繁栄と親睦を目的とした団体です。



AXS
株式会社
佐藤総合計画



三協アルミ
ダイアミックインテリジェンション窓
DI窓

窓から溢れる熱を室温まで95%カット!



SHOWA SEKKEI



LEGAL CONNECTION
建築・消防パッケージ

建築・消防パッケージ
建築・消防パッケージ
建築・消防パッケージ



SUZUKI ARCHITECTURAL DESIGN OFFICE



株式会社
大建設計



tanico



TAE 東急設計
EST1973
コンサルタント



東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.



MAKO

より賢く賢いステンレスや、金の代わりに施工可能で
経年劣化の少ないタタン、選別的な美しさを持つデザイン
パネルなど、個性の強いデザイン建築素材や特殊塗料の
一貫した開発・加工を専門にしています。



NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED
日建設計





JIA 建築家大会 2024 別府にご協賛いただき、誠にありがとうございました。

アトリエサンカスケール株式会社
 有限会社石井建築研究所
 上村設計工房
 有限会社 FU 設計
 大阪ガスケミカル株式会社
 キハラ株式会社
 空研工業株式会社
 有限会社グリフィン・アーキテクト
 株式会社 KAY アーキテクト
 株式会社 工芸社・ハヤタ
 株式会社 孝洋商事

ココヨマーケティング株式会社
 株式会社小園硝子商会
 小松ワオール工業株式会社 鹿児島支店
 金剛株式会社 九州支店
 株式会社 コンステック
 株式会社坂本基礎工業
 株式会社坂本達哉建築設計事務所
 株式会社 サンアイ
 株式会社 三紘
 株式会社 三誠
 株式会社 サントラスト

三和シャッター工業株式会社
 有限会社 GA 総合建築研究所
 ジェイ・エム・ティ設計
 末広産業株式会社
 すまい塾古川設計室有限会社
 株式会社 田島正陽建築事務所
 田島ルーフィング株式会社
 DABURA.m Inc
 株式会社 伝座工房
 株式会社 長野聖二建築設計處
 日創プロニティ株式会社

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社
 株式会社 林田直樹建築デザイン事務所
 有限会社 ひとちぎ計画ネットワーク
 株式会社 不二サッシ九州
 豊州バイル株式会社
 有限会社 堀田総合設計
 三葉電機工業株式会社
 宮崎ガス株式会社
 米良電機産業株式会社
 ヤナセ産業株式会社
 柳瀬真澄建築設計工房

株式会社 YAMAGIWA 九州支店
 株式会社 山崎商会
 有限会社 UL 設計室
 有限会社 祐建築設計事務所
 有限会社 友大
 株式会社 LIXIL
 有限会社 ロゴス設計同人

アイカ工業株式会社 福岡支店
 鯉坂建築研究所
 安達株式会社
 株式会社 EC 設計
 一般建築士事務所 致奇舎 有限会社
 内山電機株式会社
 イテックス株式会社
 株式会社 通藤照明

株式会社 大分銀行 門司駅前支店
 一般社団法人 大分県建築士事務所協会
 株式会社 小笠原
 オスモ&エーデル株式会社 九州営業所
 鹿児島アイホー調理機株式会社
 株式会社 鹿児島建築確認検査機構
 九州創建株式会社
 九州藤吉工業株式会社

株式会社 九電工 鹿児島支店
 コクヨマーケティング株式会社
 小松ワオール工業株式会社 福岡支店
 金剛株式会社 九州支店 長崎営業所
 株式会社 コンステック 長崎営業所
 西部ガス長崎株式会社 営業部
 三協立山株式会社 三協アルミ社 長崎営業所
 株式会社 サンアン・エンジニアリング

株式会社 三洋工業九州システム 鹿児島営業所
 有限会社 洪谷製作所
 総合資格学院 長崎校
 有限会社 ソフモテック
 立川ブラインド工業株式会社
 DN ライティング株式会社 福岡営業所
 株式会社 TOKO 福岡営業所
 TOTO 株式会社 九州支社

株式会社 長崎清書社
 株式会社 長崎ベニヤ
 株式会社 中澤
 永園設計株式会社
 株式会社 ナカムラ
 南国殖産株式会社
 西日本クリスタル株式会社
 西日本ビジネス印刷株式会社

西日本ビルテクノサービス株式会社
 株式会社 はまゆう電設
 株式会社 肥後設計
 文化シャッター株式会社 九州支店
 マツナガ防水産業株式会社
 株式会社 マルエイ
 株式会社 南九州エービーシー商会
 南日本警備保障株式会社

株式会社 策秀
 YKK AP 株式会社 大分支店
 YKK AP 株式会社 鹿児島支店

【設営協力】



関西フェルトファブリック株式会社



株式会社 カッシーナ・イクスシー



有限会社 エフツーアート

【送迎車両協力】



株式会社 ヤナセ

2024年11月、別府で開催された日本建築家協会 (JIA) 建築家大会。

今年のテーマは「建築の未来」——持続可能な社会を見据え、近代建築の進化がこれからの社会にどう貢献できるのかを議論する場として、各地から多くの建築家やゲストが集まりました。……しかし、僕はその本番を「知らない」のです。

大会前日の11月27日、ようやく会場のピーコンプラザに足を踏み入れたのも束の間。滞在わずか1時間ほどで、個人的な理由で急遽島原に戻ることとなりました。

長い時間をかけて企画を練り、準備してきたにもかかわらず、会場の熱気に触れることなく、仲間からかけられたのは慰めの言葉。

“楽しかったよ！” “大成功だった！”

……その声を聞いても、僕はクールダウンもできず、ただただ「僕は知らない建築家大会の話」を、少し切ない気持ちで聞くばかりでした。

■企画タスク長の役割、それは“未来の場”をデザインすること

僕の役割は、当日の運営ではなく「大会そのもののかたち」を創ること。

建築家にとって有意義な場とは何か。市民や海外ゲストとも交流できる空間とはどうあるべきか。

そうした問いに対して、多彩なプログラムを通じて「場のデザイン」を構想することが、企画タスク長としての最大のミッションでした。

その中で最も大変だったのが、大会のテーマと連携するシンポジウムの内容とコンセプトづくり。

“建築”“未来”“環境問題”そして“磯崎新が活躍した時代と建築の定義”といったキーワードから、実行委員長の川津悠嗣さんと何度も話し合い、文脈を紐解きながら軸を定めていきました。

この段階こそ、建築の「設計プロセス」のようなもの。コンセプトがブレないことが何より重要です。

■九州の地で、「建築の力」をどう表現するか

地域の魅力と建築の力をどう結びつけるか——これは、企画タスクで最後まで追い続けたテーマです。

九州という場にふさわしいプログラムを模索し続け、川津さんの知的で適切なアドバイスに支えられながら、1つひとつの構成を積み重ねていきました。

企画、広報、展示、シンポジウム……多方面からアプローチし、試行錯誤の中で見えてきたのは「人と人、人とまちがつながる瞬間」。

その風景をイメージしながら進めていくプロセスこそが、企画担当としての醍醐味でした。

■本番に立ち会えなかったけれど——

当日ご登壇いただいた方々に直接ご挨拶できなかったのは心残りでしたが、大会後に感謝の気持ちを込めてメールをお送りしました。

「構想した企画内容がかたちになり、人と建築が出会う場をつくる」。

それが実現したことを、皆さんからの声を通して感じられたことは、何よりの報酬です。

■走り続けられたのは、“仲間”がいたから

「企画タスク長、やりきれるかな……？」

任されたときは、正直なところ不安もありました。ですが、大会構想のスタート段階で、僕が最初の“タタキ”を出さないと前に進まないと感じ、設計の仕事を一時的に置いて大会の企画をメインに据え早期に資料作りに取りかかったのが良かったのだと思います。

そして何より、川津さんという同世代の仲間がいたこと。気楽に相談できる関係性の中で、的確なアドバイスをもらいながら走り続けることができました。

■最後に

この大会に携わってくださった支部の皆さんへ。

ともに悩み、立ち止まりながら、かたちにしていった日々は、僕にとってかけがえのない経験となりました。

本当にありがとうございました。

そして、九州支部で大会開催に際して関わっていただいたみなさんお疲れ様でした。

(企画タスク長 佐々木 信明)

編集後記

2024年11月、大分県別府市を舞台に開催されました「JIA建築家大会2024別府」は、多くの皆様のご参加とご支援を賜り、盛会のうちに幕を閉じることができました。心より感謝申し上げます。「建築の未来」をテーマに掲げ、基調講演、シンポジウム、ワークショップ、各種展示、エクスカージョンなどを通じて、活発な議論が展開された貴重な機会となりました。14年ぶりの九州での開催にあたり、実行委員会ではこれからの時代に即した建築家大会の在り方を模索し、準備を重ねて

まいりました。

本報告書は、大会の記録を感謝の気持ちとともに広く伝え、そして未来へ共有すべく制作いたしました。本書が今後のJIA建築家大会のさらなる発展の一助となれば幸いです。編集にあたりご寄稿・ご協力いただいた皆様、登壇者、現地関係者の皆様、協賛をいただいた皆様に改めて深く感謝申し上げます。

(広報タスク長 有吉兼次)

大会統括メンバー・実行委員

■統括メンバー

大会委員長	松山将勝	福岡地域会
大会実行委員長	川津悠嗣	福岡地域会
大会実行副委員長	佐々木寿久	福岡地域会
大会実行副委員長（担当委託）	福田哲也	福岡地域会
大会実行副委員長	重田信爾	大分地域会
幹事長	下山道男	鹿児島地域会

■実行委員

企画（会場）タスク長 大会式典（本部対応）タスク長 兼任	佐々木信明	長崎地域会
委託 タスク長	塩釜直人	北福岡地域会
委託	久寿米木和夫	宮崎地域会
財務 タスク長	松島逸人	北福岡地域会
財務	和田正樹	福岡地域会
広報 タスク長	有吉兼次	福岡地域会
広報	古賀隆寛	佐賀地域会
デザイン タスク長 企画（会場）兼任	村上明生	福岡地域会
デザイン	川崎康広	佐賀地域会
プレイベント タスク長	越山明典	宮崎地域会
プレイベント	智原聖治	福岡地域会
プレイベント ウエルカム・レセプション 兼任	松本隆之	長崎地域会
大会式典（本部対応）	作田耕一郎	宮崎地域会
メインシンポ タスク長	田中健一郎	長崎地域会
メインシンポ	三迫靖史	北福岡地域会
28 シンポ タスク長	田中康裕	福岡地域会
28 シンポ	鼻崎象三	長崎地域会
29 シンポ・各種企画 タスク長	永澤 正哉	北福岡地域会
29 シンポ・各種企画	杉野友紀	北福岡地域会
ウエルカム・レセプション タスク長	林田直樹	熊本地域会
エクスカーショ ン タスク長	竹宮浩一郎	大分地域会
エクスカーショ ン	田島正陽	福岡地域会
エクスカーショ ン	鯨坂徹	鹿児島地域会
国際 タスク長	水本浩二	鹿児島地域会
コンペ・あかりコンペ タスク長	吉永啓	熊本地域会
展示 タスク長	池浦順一郎	福岡地域会
協力会 タスク長	宮崎秀志	鹿児島地域会

JIA 建築家大会 2024 別府 大会報告書

2025年3月31日発行

発行・編集 公益社団法人 日本建築家協会 九州支部
〒810-0022
福岡県福岡市中央区薬院1-4-8 あづまビル2F

表紙デザイン 野口剣太郎(SHIROKURO)

編集協力・製作 南風舎

